射水市内遺跡発掘調査報告14

— 令和２年度射水市内遺跡発掘調査 —

2022年

富山県射水市教育委員会

射水市内遺跡発掘調査報告14

— 令和2年度射水市内遺跡発掘調査 —

2022年

富山県射水市教育委員会

例　言

1　本書は、令和２年度に富山県射水市内において射水市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
2　発掘調査・出土品整理・報告書刊行は、国庫補助金・県費補助金の交付を受けて実施した。
3　調査対象とした埋蔵文化財包蔵地名及び調査位置・原因・面積・期間等は第２章に記した。
4　本書の執筆・編集は、射水市教育委員会 生涯学習・スポーツ課 係長 田中 明・主査 原田義範が担当した。
5　遺物整理の従事者は、高瀬直子・吉澤泰子である。
6　発掘調査に係る出土遺物・図面・写真等の資料は、すべて射水市教育委員会で一括保管している。

凡　例

1　本書で用いた座標は、世界測地系第Ⅶ系に準拠した。方位は真北、水平基準は海抜高である。
2　遺構実測図の縮尺は、各々のスケールとともにその縮尺を表記した。遺物実測図の縮尺は土器の1／4を基本とし、スケールとともにその縮尺を表記した。
3　出土遺物の番号は、遺物実測図・遺物観察表・写真図版の遺物番号にそれぞれ対応している。
4　本書で用いた土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に準拠している。
5　第２章の調査地区図版内にある試掘トレンチ脇の記号は、遺物の出土位置を示し、種類は次のとおり表示した。

●：縄文土器　○：弥生土器　▽：古墳土師器　◇：古代土師器　▲：須恵器
◆：珠洲　□：中世土師器　■：中世陶磁器　⊗：近世陶磁器　☒：近代以降の遺物
☆：石製品　★：金属製品　◎：木製品　⊖：その他の遺物
T：トレンチ（試掘坑）

6　遺物実測図中の土器断面及び内外面の表現は次のとおりとした。

■：須恵器・珠洲　　：煤・炭化物

目　次

第１章　射水市の位置と歴史的環境 …… 1
　第１節　射水市の位置と歴史的環境 …… 1
　第２節　令和２年度実施の埋蔵文化財調査 …… 1
第２章　令和２年度実施の発掘調査 …… 3
　第１節　各種開発に伴う試掘調査 …… 3
　　1・4・8・12・14. 八塚Ａ遺跡 …… 5
　　2．戸破神川遺跡 …… 6
　　3．烏帽子形遺跡 …… 7
　　5．背戸狭間遺跡 …… 7
　　9・13. 加茂社遺跡 …… 8
　　10・11. 沖塚原東Ｂ遺跡・沖塚原遺跡 …… 9
　第２節　沖塚原地区企業団地造成事業に伴う試掘調査 …… 10
　　1．調査に至る経緯と経過 …… 10
　　2．調査の方法 …… 10
　　3．調査の結果 …… 10
　第３節　島・上条地区県営ほ場整備事業に伴う分布調査 …… 18
　　1．調査に至る経緯と経過 …… 18
　　2．調査の方法 …… 18
　　3．調査の結果 …… 19

挿図目次

第１図　射水市の位置 …… 1
第２図　射水市内の主要遺跡 …… 2
第３図　令和２年度試掘調査・分布調査・工事立会調査実施箇所位置図 …… 4
第４図　沖塚原地区試掘調査対象地及び周辺の遺跡 …… 10
第５図　沖塚原東Ｂ遺跡試掘調査トレンチ・検出遺構図（１）…… 12
第６図　沖塚原東Ｂ遺跡試掘調査トレンチ・検出遺構図（２）…… 13
第７図　遺物実測図［加茂社遺跡、戸破神川遺跡、沖塚原東Ｂ遺跡］…… 14
第８図　遺物実測図［沖塚原東Ｂ遺跡］…… 15
第９図　島・上条地区分布調査対象地及び周辺の遺跡 …… 18
第10図　島・上条地区分布調査平面図（トレンチ及び遺物採取箇所）…… 20
第11図　遺物実測図［島・上条地区分布調査］…… 22

表目次

第１表　令和２年度埋蔵文化財試掘調査一覧 …… 3
第２表　沖塚原東Ｂ遺跡試掘調査トレンチ一覧 …… 16
第３表　出土遺物観察表［試掘調査］…… 17
第４表　出土遺物観察表［島・上条地区分布調査］…… 22
第５表　令和２年度埋蔵文化財工事立会調査一覧 …… 22

図版目次

図版１　八塚Ａ遺跡（１）試掘調査　１Ｔ遺構検出、１Ｔ土層断面、出土遺物（碗型木製品）
図版２　戸破神川遺跡 試掘調査　３Ｔ全景、１Ｔ土層断面、出土遺物（弥生土器・古代須恵器中世珠洲・中世土師器・近世陶磁器・古代鉄滓）
図版３　烏帽子形遺跡 試掘調査　１Ｔ全景、１Ｔ土層断面、出土遺物（近世陶磁器）
図版４　八塚Ａ遺跡（４）試掘調査　２Ｔ掘削状況、２Ｔ土層断面、２Ｔ遺構検出
図版５　背戸狭間遺跡 試掘調査　調査対象地全景、１Ｔ全景、１Ｔ土層断面
図版６　八塚Ａ遺跡（８）試掘調査　２Ｔ全景、１Ｔ土層断面、２Ｔ遺構検出
図版７　加茂社遺跡（９）試掘調査　３Ｔ全景、３Ｔ遺構検出、出土遺物（弥生土器・古代須恵器・近世磁器）
図版８　沖塚原東Ｂ遺跡(10) 試掘調査　調査対象地近景、７Ｔ遺構検出、出土遺物（中世土師器）
図版９　沖塚原遺跡 試掘調査　調査対象地近景、28Ｔ土層断面、出土遺物（中世土師器・近世磁器）
図版10　八塚Ａ遺跡(12) 試掘調査　８Ｔ全景、８Ｔ遺構検出、出土遺物（古代須恵器・近世陶器）
図版11　加茂社遺跡(13) 試掘調査　４Ｔ全景、４Ｔ遺構検出、出土遺物（弥生土器）
図版12　八塚Ａ遺跡(14) 試掘調査　調査対象地全景、１Ｔ全景、１Ｔ土層断面
図版13　沖塚原東Ｂ遺跡（７）試掘調査　55Ｔ遺構検出、71Ｔ遺構検出
図版14　沖塚原東Ｂ遺跡（７）試掘調査　71Ｔ土層断面、80Ｔ中世珠洲出土、81Ｔ遺構検出
図版15　沖塚原東Ｂ遺跡（７）試掘調査　出土遺物（中世土師器・中世珠洲）
図版16　島・上条地区 分布調査　島鉾田南遺跡近景、17Ｔ遺構検出、出土遺物（弥生土器古代須恵器・中世青磁・近世陶器）
図版17　島・上条地区 分布調査　92Ｔ遺構検出、116Ｔ遺構検、出土遺物（弥生土器不明土師器・近世陶磁器・近現代磁器）

第１章　射水市の位置と歴史的環境

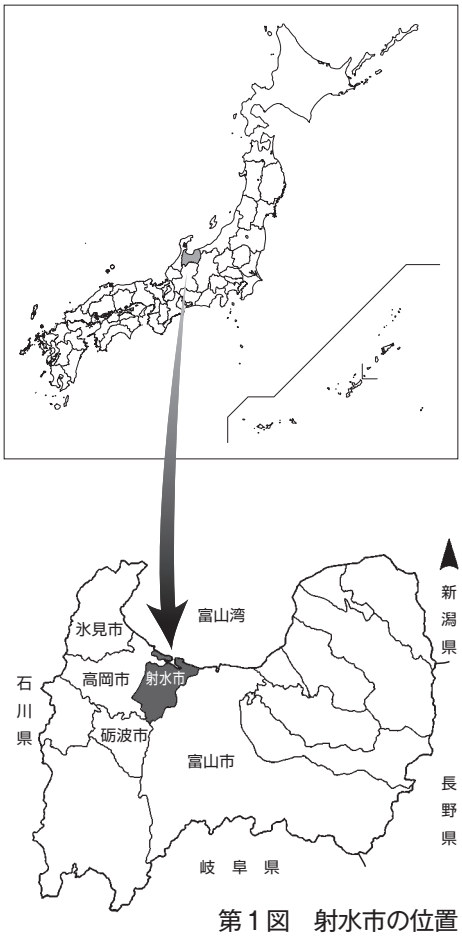
第１節　射水市の位置と歴史的環境

射水市は富山県のほぼ中央に位置し、市域は東西約11㎞、南北約15㎞で面積109.43㎢である。北に富山湾、中央に射水平野、南部に射水丘陵を配し、標高0～140ｍを測る。

富山市・高岡市と隣接し、交通の便に恵まれていることから、住宅団地造成が頻繁に行われ、ベットタウン化が進んでいる。現在の人口は約９万２千人弱である。

市域の大部分を占める射水平野は、東の神通川と西の庄川に挟まれた東西約11㎞、南北約７㎞の沖積平野であり、およそ１万～８千年前に河川によって運ばれた土砂・粘土・礫などの堆積からなる。この沖積層が堆積した時代は海岸線が沖へ後退し、平野部は現在より広かったとみられるが、その後、いわゆる縄文海進期における海面の上昇によって、海岸線の内陸への進出とともに平野部が狭まり、現在の標高約５ｍ以下は海面下に没したと考えられている。

やがて、気候の寒冷化による海岸線の後退と丘陵部からの土砂の堆積が進むと、かつての海は縮小して放生津潟（現：富山新港）としてのみ形を残し、周辺に低湿な射水平野が開けていった。



第１図　射水市の位置

市域の南部に広がる射水丘陵は、新生代第三紀の青井谷泥岩層を基盤とし、上層に礫と砂泥からなる日ノ宮互層と太閤山火砕岩層の堆積から成る。丘陵部には、鍛冶川・下条川・和田川やその支流によって河岸段丘や樹枝状の谷間が形成されている。

このような自然環境の中で、先人達は集落を形成していったと考えられる。現在、市内には460箇所の遺跡が密集し、平野部では集落遺跡、丘陵部には生産遺跡が多く確認されている。

平野部では、河川に近い地域に高島Ａ遺跡、北高木遺跡、二口油免遺跡、小杉伊勢領遺跡などの集落遺跡が分布し、竪穴建物や掘立柱建物、溝や井戸などが確認されている。生産地である丘陵部と消費地である平野部とを河川が結んで、交通路として機能していたために集落が営まれてきたと考えられている。

丘陵部では国指定史跡の小杉丸山遺跡、小杉流通業務団地内遺跡、上野南遺跡、赤坂Ａ～Ｄ遺跡など生産遺跡が集中している。これらの遺跡は、須恵器窯跡約40遺跡、製鉄遺跡約150遺跡を数え、県内最大規模を有する。須恵器生産窯跡や鉄生産製鉄炉と炭窯、工人の住居や作業場が見つかり、窯や炉を築くのに適した地形、粘土や薪・水の供給源が豊富にあることが好条件であったと考えられている。

第2節　令和２年度実施の埋蔵文化財調査

令和２年度の射水市管内における各種民間開発事業に係る埋蔵文化財包蔵地の照会件数は317件であった。公共事業関連の開発事業に関しては、関係部局より随時照会を受けるとともに協議を実施している。

文化財保護法第93条の届出件数は28件、同第94条の通知件数は６件であり、うち、発掘調査等による対応件数は、試掘調査が14件、工事立会調査が12件となっている。

第２図　射水市内の主要遺跡

第２章　令和２年度実施の発掘調査

第１節　各種開発に伴う試掘調査

令和２年度に射水市教育委員会が実施した埋蔵文化財の試掘調査件数は14件であった。調査原因としては、宅地造成（7件）、個人専用住宅（2件）、集合住宅（1件）といった住宅関連の民間開発が71％、公共事業が29％となり、民間開発の調査件数が2.6倍に増加した（前年度比）。

試掘調査によって保護措置が必要となる埋蔵文化財が確認された際には、原因者に対して盛土保存や計画変更等による埋蔵文化財の現状保存を第一とし、現状保存が不可能となる場合は本発掘調査による記録保存対応での協議を求めている。

第２節で報告する企業団地造成事業に伴う沖塚原東Ｂ遺跡試掘調査では、保護措置が必要となる埋蔵文化財が確認されたことから、市担当課との協議を重ね、4,500㎡を対象とした本発掘調査を令和３年度に実施した。

No.	遺跡名	種別	所在地	調査原因	調査期間	対象面積	発掘面積	検出遺構	出土遺物	調査後の措置
1	八塚Ａ遺跡 211447	散布地 集落	八塚字川田318－1 外2筆	宅地造成	R2.5.22	989.0㎡	35.2㎡	不明溝	椀型木製品	工事実施 （支障なし）
2	戸破神川遺跡 211354	散布地	戸破字神川2622－1 外13筆	宅地造成	R2.7.20・21	2,433.0㎡	196.3㎡	不明溝	弥生土器・古代須恵器 中世珠洲・中世土師器 近世陶磁器・古代鉄滓	工事実施 （支障なし）
3	烏帽子形遺跡 211014	散布地	善光寺2番6	個人専用 住宅建築	R2.8.28	416.0㎡	18.1㎡	なし	近世陶磁器	工事実施 （支障なし）
4	八塚Ａ遺跡 211447	散布地 集落	小島1150番1	宅地造成	R2.9.25	1,093.0㎡	66.8㎡	不明溝	なし	工事実施 （支障なし）
5	背戸狭間遺跡 211015	散布地	善光寺9番8	個人専用 住宅建築	R2.9.29	461.6㎡	22.2㎡	なし	なし	工事実施 （支障なし）
6	島鉾田南遺跡 211374	散布地	島1番地　外521筆	県営ほ場 整備	R2.10.12～14	205,009.2 ㎡	72.0㎡	なし	弥生土器・近世陶磁器 不明土師器・近現代磁器	工事実施 （支障なし）
7	沖塚原東Ｂ遺跡 211034	散布地	沖塚原20番 外73筆	企業団地 造成	R2.10.19～ 11.16	114,051.0 ㎡	7,369.0㎡	中世溝・中世土坑 中世井戸・不明溝 不明土坑	弥生土器・古代須恵器 中世珠洲・中世土師器 近世陶磁器・不明石製品 不明木製品	本発掘調査協議 （一部記録保存） 4,500㎡
8	八塚Ａ遺跡 211447	散布地 集落	八塚字川田321－1	宅地造成	R2.11.19	991.0㎡	64.0㎡	不明溝	なし	工事実施 （支障なし）
9	加茂社遺跡 211088	散布地 集落	三ヶ2675番1 外4筆	集合住宅 建築	R2.11.20	1,535.1㎡	102.5㎡	弥生溝・弥生土坑	弥生土器・古代須恵器 近世磁器	工事実施 （一部記録保存） 保護措置：414㎡
10	沖塚原東Ｂ遺跡 211034	散布地	沖塚原149番3	市道改良	R2.11.25	300.0㎡	47.5㎡	不明溝・不明土坑	中世土師器	工事実施 （支障なし）
11	沖塚原遺跡 211024	散布地	沖塚原204番3 外2筆	市道改良	R2.11.25・26	685.0㎡	96.9㎡	なし	中世土師器・近世陶磁器	工事実施 （支障なし）
12	八塚Ａ遺跡 211447	散布地 集落	八塚字川田379番 外18筆	宅地造成	R3.3.1	2,408.0㎡	130.1㎡	不明土坑	古代須恵器・近世陶器	工事実施 （支障なし）
13	加茂社遺跡 211088	散布地 集落	三ヶ2674番1 外1筆	宅地造成	R3.3.3	928.0㎡	84.6㎡	不明溝	弥生土器・木製品	工事実施 （支障なし）
14	八塚Ａ遺跡 211447	散布地 集落	小島2345番1	宅地造成	R3.3.26	441.0㎡	31.0㎡	なし	なし	工事実施 （支障なし）
計	8遺跡14件			調査対象面積	331,740.9㎡		発掘面積	8,336.2㎡		

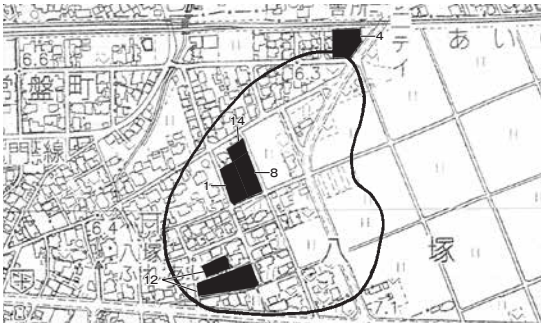
第１表　令和２年度埋蔵文化財試掘調査一覧

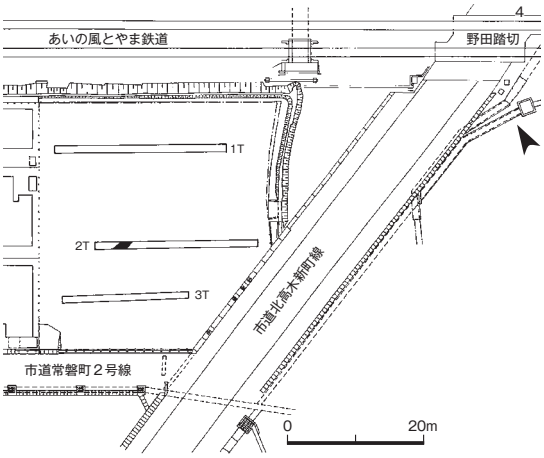
※地図中❶～⓮は、第1表及び5頁以降の調査番号に対応
（❻は18頁第3節【分布調査】、❼は10頁第2節【試掘調査】）
※地図中①～⑫は、22頁第5表の調査番号に対応【工事立会】

第３図　令和２年度試掘調査・分布調査・工事立会調査実施箇所位置図

【令和2年度試掘調査概要】

1.4.8.12.14.八塚A遺跡（図版1･4･6･10･12）





所　在　地　射水市八塚字川田318-1 外(1)
射水市小島1150番1(4)
射水市八塚字川田321-1(8)
射水市八塚字川田379番 外(12)
射水市小島2345番1(14)

調査原因　宅地造成

調査期間　令和2年5月22日(1)
令和2年9月25日(4)
令和2年11月19日(8)
令和3年3月1日(12)
令和3年3月26日(14)

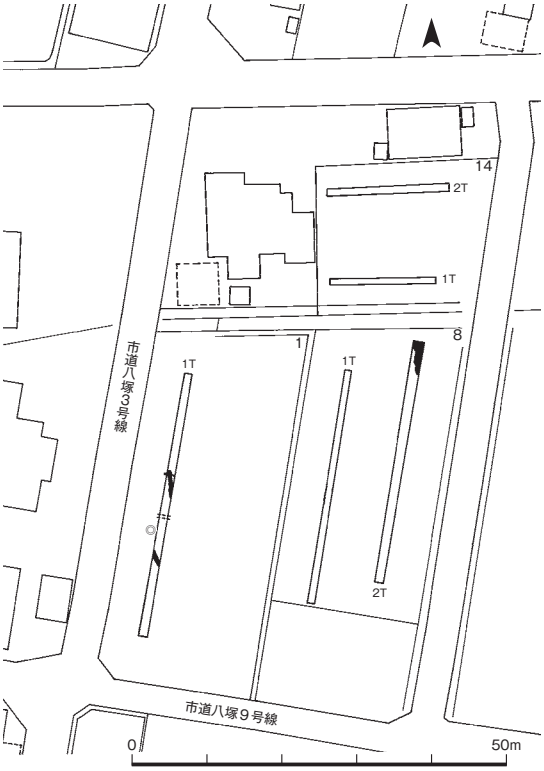
調査面積　対象面積:989.0㎡　発掘面積:35.2㎡(1)
対象面積:1,093.0㎡　発掘面積:66.8㎡(4)
対象面積:991.0㎡　発掘面積:64.0㎡(8)
対象面積:2,408,0㎡　発掘面積:130.1㎡(12)
対象面積:441,0㎡　発掘面積:31.0㎡(14)

調査担当者　原田義範

検出遺構　不明溝(1･4･8)･不明土坑(12)
なし(14)

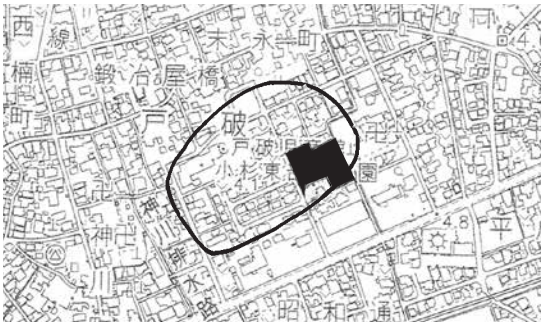
出土遺物　椀型木製品(1)、古代須恵器
近世磁器(12)、なし(4･8･14)

調査概要　調査は遺跡の中央部(1・8・14)、北東端部(4)、南西端部(12)の計5か所で実施した。標高は中央部で5.9m、北東部で5.7m、南西部で6.0～6.5mである。基本層序は造成土を除き、概ね上層から１層が黒褐色の耕作土、２層が黒色の粘質土、３層が黄灰色(2.5Y5/1)シルト質土または砂の地山となる。中央部と南西部では２層下に腐植土層が部分的にみられた。遺構確認は３層上面で行った。中央部の調査では、１区で溝２条を検出。北側の溝は近年の埋立て痕跡があり、南側の溝は出土遺物がなく、時期不明である。８区の２Ｔ北端の溝は旧用排水路と考えられる。北東端部の4区では、2･3Tでは耕土直下が3層の遺構面となり、2Tで時期不明な溝1条を検出している。南西端部の12区では、8Tの土坑は出土遺物がなく時期



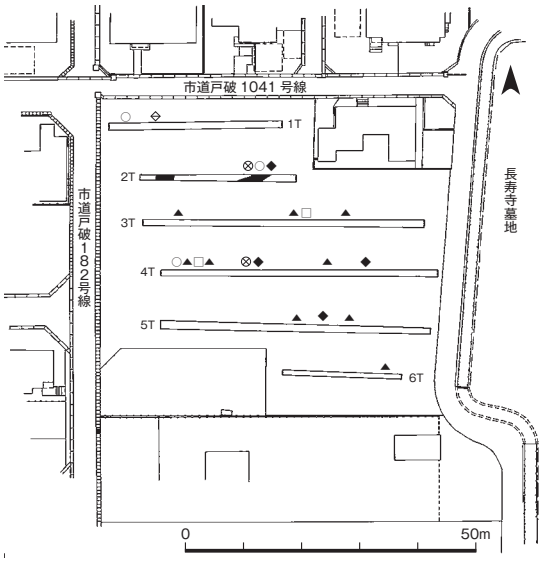
不明である。遺物は2Tから須恵器が地山直上で1点、3Tの2層土から近世磁器1点が出土している。

2. 戸破神川遺跡（第7図･図版2）



所　在　地　射水市戸破字神川2622－1　外13筆
調査原因　宅地造成
調査期間　令和2年7月20日・21日
調査面積　対象面積：2,433㎡
　　発掘面積：196.3㎡
調査担当者　原田義範
検出遺構　不明溝
出土遺物　弥生土器・古代須恵器・中世珠洲・中世土師器・近世陶磁器・古代鉄滓

調査概要　調査地は標高約4.1mで、戸破神川遺跡の東南部に位置する畑地である。上層から１層が灰黄褐色土の耕土（15～20cm）、2層が黒褐色粘質土（20～80cm）、3層が黒褐色シルト質土（10～30cm）、黄褐色（2.5Y5/3）シルト質土の地山なる。1から2Ｔ間では深さ約60cmで安定した地盤の地山が広がり、時期不明の溝2条を確認した。3から5Ｔ間では、南西から北東方向の地山の落ち込みがみられ、浅い谷が入り込む地形が想定された。遺物は大半が3層からの出土で須恵器・珠洲が多くみられた。

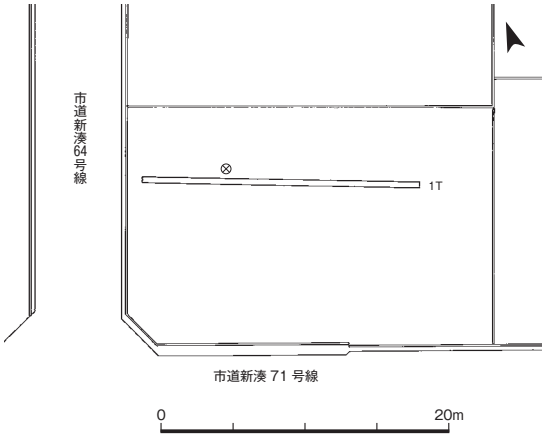


3. 烏帽子形遺跡（図版3）

所　在　地　射水市善光寺2番6
調査原因　個人専用住宅建築
調査期間　令和2年8月28日
調査面積　対象面積：416.0㎡
　　発掘面積：　18.1㎡
調査担当者　原田義範
検出遺構　なし
出土遺物　近世陶磁器

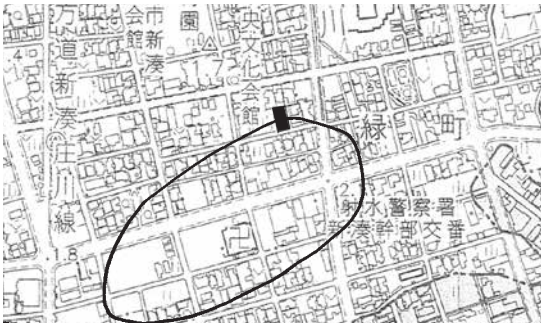
調査概要　調査地は標高約1.2m、烏帽子形遺跡の中央部に位置する水田である。

上層から1層が黒褐色の水田耕土（10～20cm）、2層が黄灰色粘質土（15～20cm）、3層が炭化物混在の黄灰色（2.5Y4/1）粘質土（15～20cm）、4層が灰白色（2.5Y7/1）粘質土の地山となる。遺構確認は4層上面で行った。遺物は2層土から出土している。



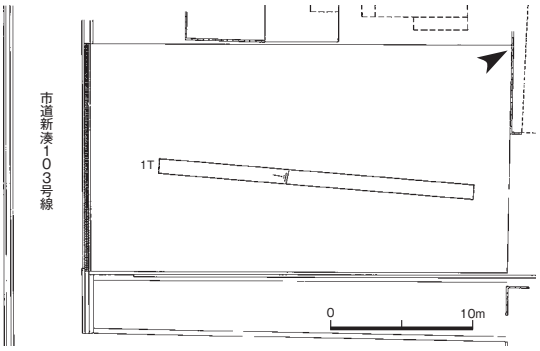
5. 背戸狭間遺跡（図版5）

所　在　地　射水市善光寺9番8
調査原因　個人専用住宅建築
調査期間　令和2年9月29日
調査面積　対象面積：461.6㎡
　　発掘面積：　22.2㎡
調査担当者　原田義範
検出遺構　なし
出土遺物　なし



調査概要　調査地は標高1.5mの背戸狭間遺跡の北東端部に位置する宅地である。

上層から造成盛土（約100cm）、灰色土の旧水田耕土（20～50cm）、灰色（5Y6/1）シルト質土の地山となる。遺構確認は地山上面で行った。トレンチ中央部から南側にかけて地山の落ち込みがみられた。

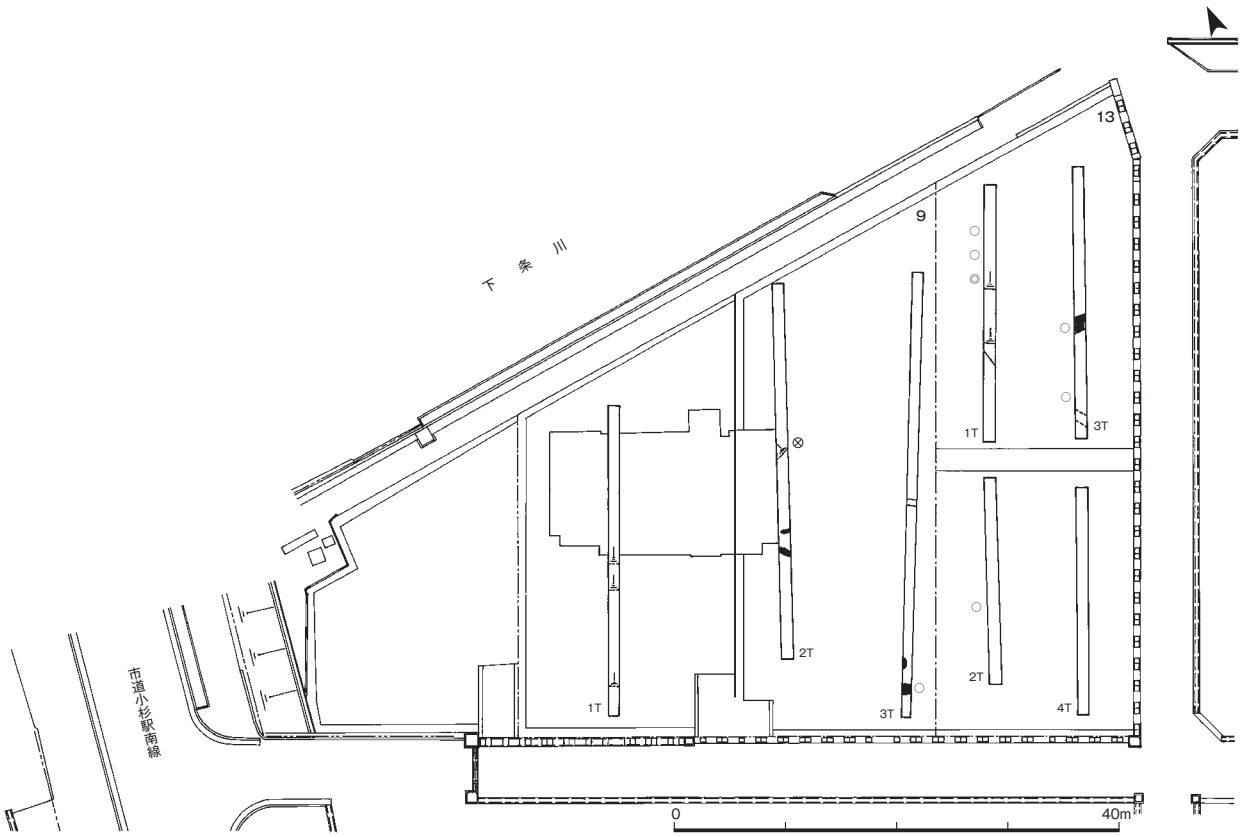


9・13. 加茂社遺跡（第7図・図版７・11）

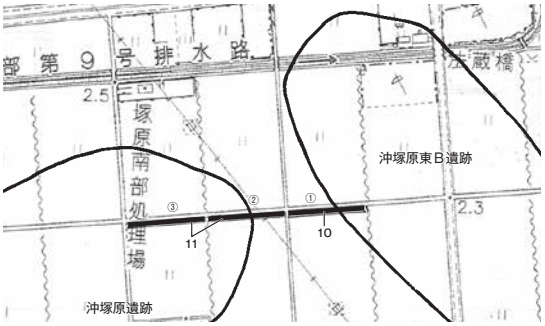
所　在　地　射水市三ヶ2675番1　外4筆(9)
　　射水市三ヶ2674番1　外1筆(13)
調査原因　集合住宅建築(9)、宅地造成(13)
調査期間　令和2年11月20日(9)
　　令和3年3月3日(13)
調査面積　対象面積：1,535.1㎡(9)、928.0㎡(13)
　　発掘面積：102.5㎡(9)、84.6㎡(13)
調査担当者　原田義範
検出遺構　弥生溝・弥生土坑(9)、不明溝(13)
出土遺物　弥生土器・古代須恵器・近世磁器(9)
　　弥生土器・木製品(13)

調査概要　調査地は標高約4.6mで加茂社遺跡の西端に位置する水田である。１層が灰黄褐色の水田耕土(20～25cm)、２層が褐灰色（０～30cm）土、３層が灰色(5Y6/1)土の地山となる。遺構確認は３層上面でおこなった。調査区北側の下条川沿いでは川に向かって地山の落ち込みがみられ、この際から南側が安定した地盤で溝５条と土坑１基を検出している。弥生土器は２条の溝及び２層土から出土するがまとまりは見られず散発的な状況であった。

本遺跡では平成６年に調査地東側の宅地造成に伴う試掘調査及び本発掘調査が実施され、古代を中心とする溝や井戸などの他、中世の素掘り井戸や弥生時代の遺構・遺物も確認されている。この他の調査からも今回同様に、弥生時代の土坑や溝も確認されていることから周辺に弥生時代の集落の存在がうかがえる。



10. 沖塚原東B遺跡
11. 沖塚原遺跡（図版８・９）



所　在　地　射水市沖塚原149番3（10）
　　射水市沖塚原204番3　外2筆（11）
調査原因　市道改良
調査期間　令和2年11月25日・26日
調査面積　対象面積：300.0㎡(10)、685.0㎡(11)
　　発掘面積：47.5㎡(10)、96.9㎡(11)
調査担当者　原田義範
検出遺構　不明溝・不明土坑(10)、なし(11)
出土遺物　中世土師器(10・11)、近世陶磁器(11)

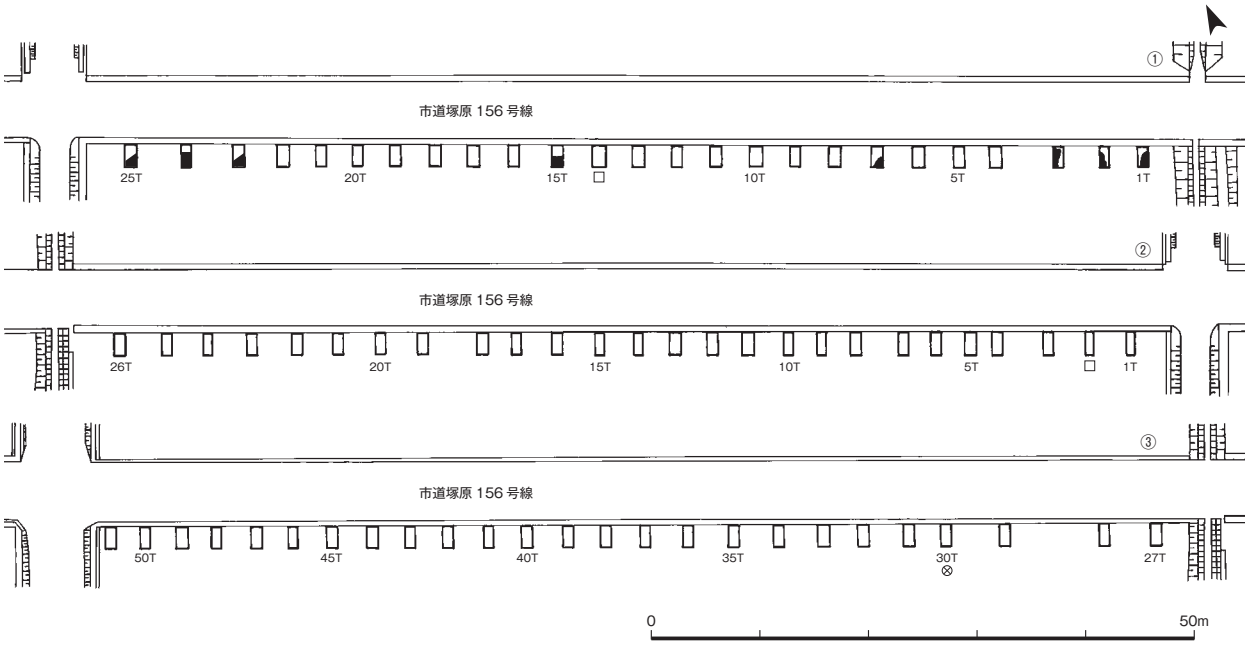
調査概要　調査地は標高1.5～1.6mで沖塚原東Ｂ遺跡の中央部西端及び沖塚原遺跡北東端部に位置する水田である。令和２年３月に東側に隣接する水田で同事業に伴う試掘調査では河川跡（旧神楽川流路）が確認されている。

基本層序は上から1層が暗灰黄色粘質の耕土(15～30cm)、２層が黒褐色シルト質土(0～20cm)、3層が灰黄色(2.5Y6/3)シルト質土の地山となる。遺構確認は3層上面でおこなった。

今回の沖塚原東Ｂ遺跡調査では、平成30年実施の斎場建設に先立つ試掘調査で確認された溝と位置関係から関連がうかがえる溝が2・3・22・24・25Ｔで確認されている。遺物は14Ｔの2層土から中世土師器の皿1点が出土している。

沖塚原遺跡調査では、昭和30年代後半から40年代に行われた大規模な耕地整理時の田面高調整で切土された痕跡が、30Ｔ以西で顕著で１層土下が３層の地山となる。

遺物は12Ｔの2層土から中世土師器の皿1点と、30Ｔの１層耕土から近世陶磁器１点が出土している。



第２節　沖塚原地区企業団地造成事業に伴う試掘調査

１．調査に至る経緯と経過

射水市は平成28年6月から企業団地適地の候補地調査を実施し、新規適地３地区が選定されていた。平成30年10月、最も進出企業の引き合いがあった沖塚原地区での企業団地造成事業計画が、射水市土地開発公社及び事業担当課から射水市教育委員会に示された。

事業計画地には周知の埋蔵文化財包蔵地である沖塚原東Ｂ遺跡が所在しているため、埋蔵文化財の取り扱いの協議を進め、事業計画地11.62haのうち11.40haを対象に試掘確認調査を実施することとなった。調査は令和２年10月19日から11月16日の実働16日間実施した。

第4図　沖塚原地区試掘調査対象地及び周辺の遺跡(1/20,000)

❶沖塚原東B遺跡　❷沖塚原遺跡　❸沖塚原東A遺跡　❹鏡宮北遺跡　❺高島A遺跡　❻作道遺跡　❼鏡宮遺跡　❽高木･荒畑遺跡　❾南浦遺跡　❿今井西遺跡　⓫北高木遺跡　⓬朴木C遺跡　⓭松木中鹿遺跡　⓮松木大ノ田遺跡

２．調査の方法

調査は、山積 0.28 ㎥の重機を使用して、幅約 1.1 m、長さ 2.6 ～ 124.0 mの試掘トレンチを任意に設定し、遺構検出面と考えられる土層まで掘り下げた。バックホウによる掘削後、人力によりトレンチ床面及び壁面の精査を行い、遺構・遺物の有無を確認するとともに、堆積している土層の断面実測及び写真撮影により記録を作成した。

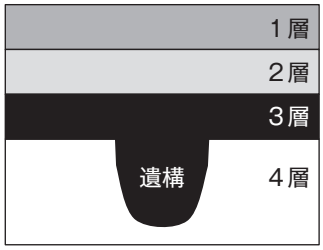
記録作成にあたっては、遺構の平面的な広がりや地表面から遺構確認面までの深度が、埋蔵文化財の保護措置決定に必要となることから、遺構面標高値の測定に高い精度が求められる。このため、試掘トレンチ位置や土層断面の測量、標高基準面測量等を記録支援業務として発掘調査実績のある民間業者に委託して実施した。なお、測量原点となる基準点及び平面図は、整備担当課が作成した測量成果を使用した。設定したトレンチは 84 本、延長 6,327.5 m、発掘面積 7,369 ㎡である。

３．調査の結果

（1）基本層序

上層から１層が暗灰黄色（2.5Y4/2）土、２層が黒褐色（2.5Y3/1）土、３層が黒色（2.5Y2/1）土､4 層がにぶい黄色（2.5Y6/4）シルト質土の順に堆積する。

１層は現在の水田耕土、２層が昭和30年代後半から46年の大規模な耕地



基本層序模式図

整理時整地土、３層以下が自然堆積層となる。３層には弥生時代、古墳時代、中世（鎌倉・室町時代）の遺物が包含する。４層は地山であり、遺構検出は４層上面で行った。調査対象地では、前述の耕地整理の田面高調整に伴う削平が地山まで影響し、１層直下が４層となる箇所が広範囲にみられた。

（2）遺構及び遺物（第５～８図、図版 13 ～ 15）

調査対象地は、耕地整理に伴う削平によって１層の耕土直下が遺構検出面の地山となるトレンチが多く、遺構の遺存状況が確認できない箇所も広範囲に及んでいる。また、遺物を伴う遺構は少なく、出土量も僅かであるため、時期や性格共に不明な遺構が多い。

遺構・遺物に比較的まとまりが見られた調査区は、平成30年度の試掘調査で遺構等の存在が明らかとなった区域の道路を挟んだ東隣接地で、溝や土坑などの遺構の広がりを確認している。51～54Ｔでは南北方向に平行する約12m間隔の溝４条を検出している。また、71・77Ｔでは、東西方向の溝を確認した。80・81Ｔでは多くの溝のほか土坑も確認され、80Ｔ南端付近では井戸１基を検出している。

遺物は80Ｔから中世と考えられる板材や下駄の歯部の木製品、煤付着の珠洲焼すり鉢や甕片、土師器皿、青磁が出土する。81Ｔでも、珠洲焼甕または壷の胴部片や土師器皿、弥生土器が見られた。51Ｔでは、弥生土器、珠洲焼すり鉢、砥石、天目茶碗が確認されている。このほか、37Ｔ東部から22～24Ｔ西部の範囲から珠洲焼が、わずかに残る２層土から出土している。いずれのトレンチからも遺構は確認されていない。また、58Ｔ西端では平成25、27、30年度調査区で、近代に埋め立てられた旧神楽川の流路とされる河川跡の一部を確認した。このほか近年に埋め立てられた南北方向の川や溝跡は、１～６Ｔ、31～37Ｔでも確認している。

（3）調査のまとめ

沖塚原東Ｂ遺跡は、平成９年度に実施した塚原地区の遺跡詳細分布調査で確認された遺跡である。分布調査は、踏査による遺物の表面採取によって遺跡の範囲等を判断している。

今回の対象地の北側及び西側では、民間開発事業や射水市斎場等建設に先立ち、53,849 ㎡を対象に試掘調査が実施され、同遺跡内の遺構・遺物の遺存状況が確認されている。

今回の試掘調査結果はこれまでの隣接地での試掘調査で得られている結果と同様に、調査対象地のほぼ全域で遺構検出面まで耕地整理による削平や耕作の影響が及んでいることが確認された。このため地下に包含されている遺物が耕土に混入する結果となり、遺物の表面散布範囲が地下遺構と重複する結果になったものとみられる。

今回の試掘調査では、平成30年度実施の射水市斎場建設に先立つ本発掘調査で発見された中世期の居館跡等を想定できる明確な遺構の配置状況等は把握できなかったが、井戸が発見されたことや土坑から被熱痕のある中世珠洲焼をはじめとする土器のほか、当時の生活に関連づける木製品や石製品がまとまりのある範囲で出土していることを確認した。このことから54Ｔ以南から77Ｔ以北の西側で、平成30年度に発見された居館跡等と関連する中世期の遺構が遺存していると判断した。

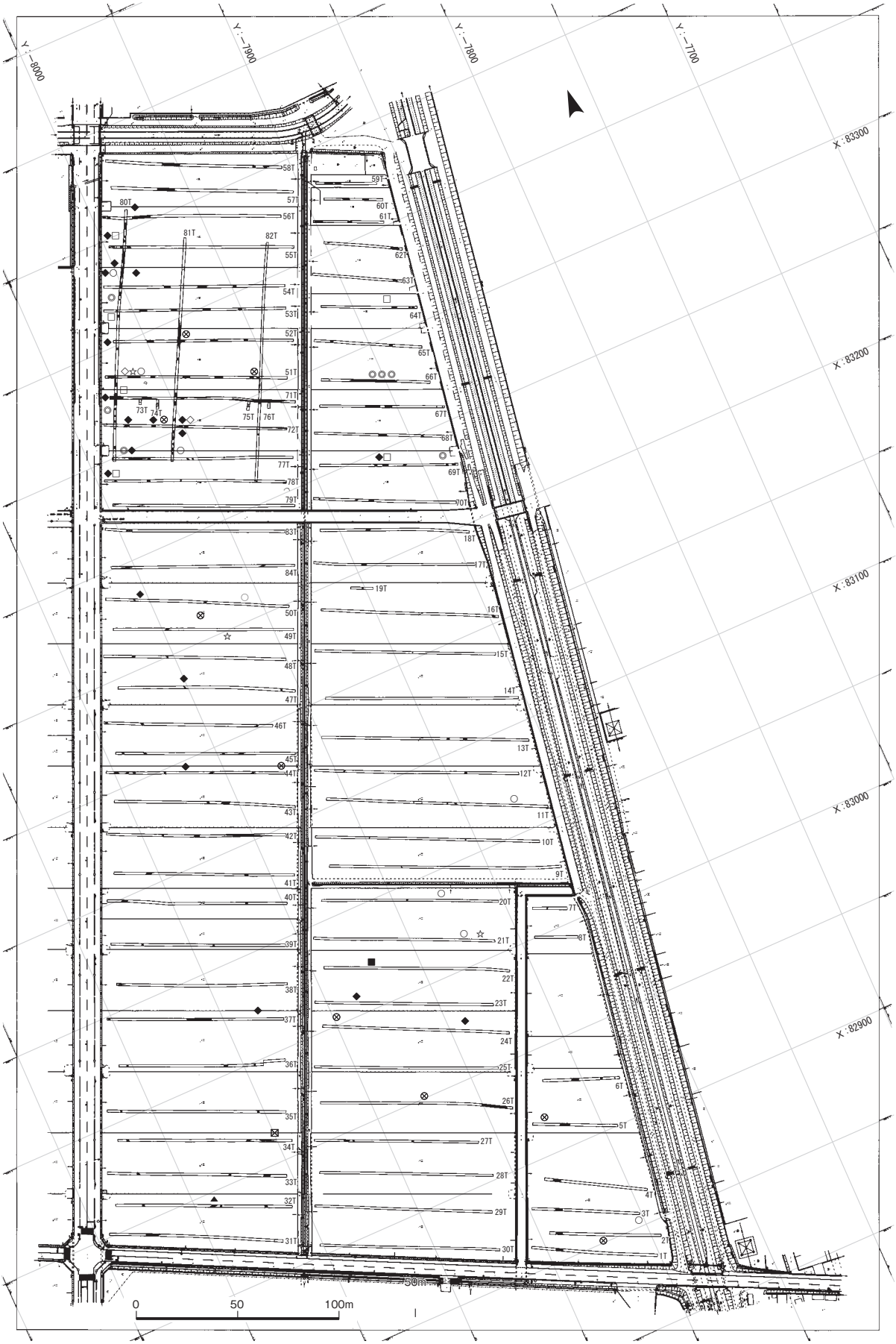
参考文献

岡田一広、金三津英則　2019年『沖塚原東Ｂ遺跡発掘調査報告－射水市斎場建設事業に伴う埋蔵文化財調査－』　射水市教育委員会

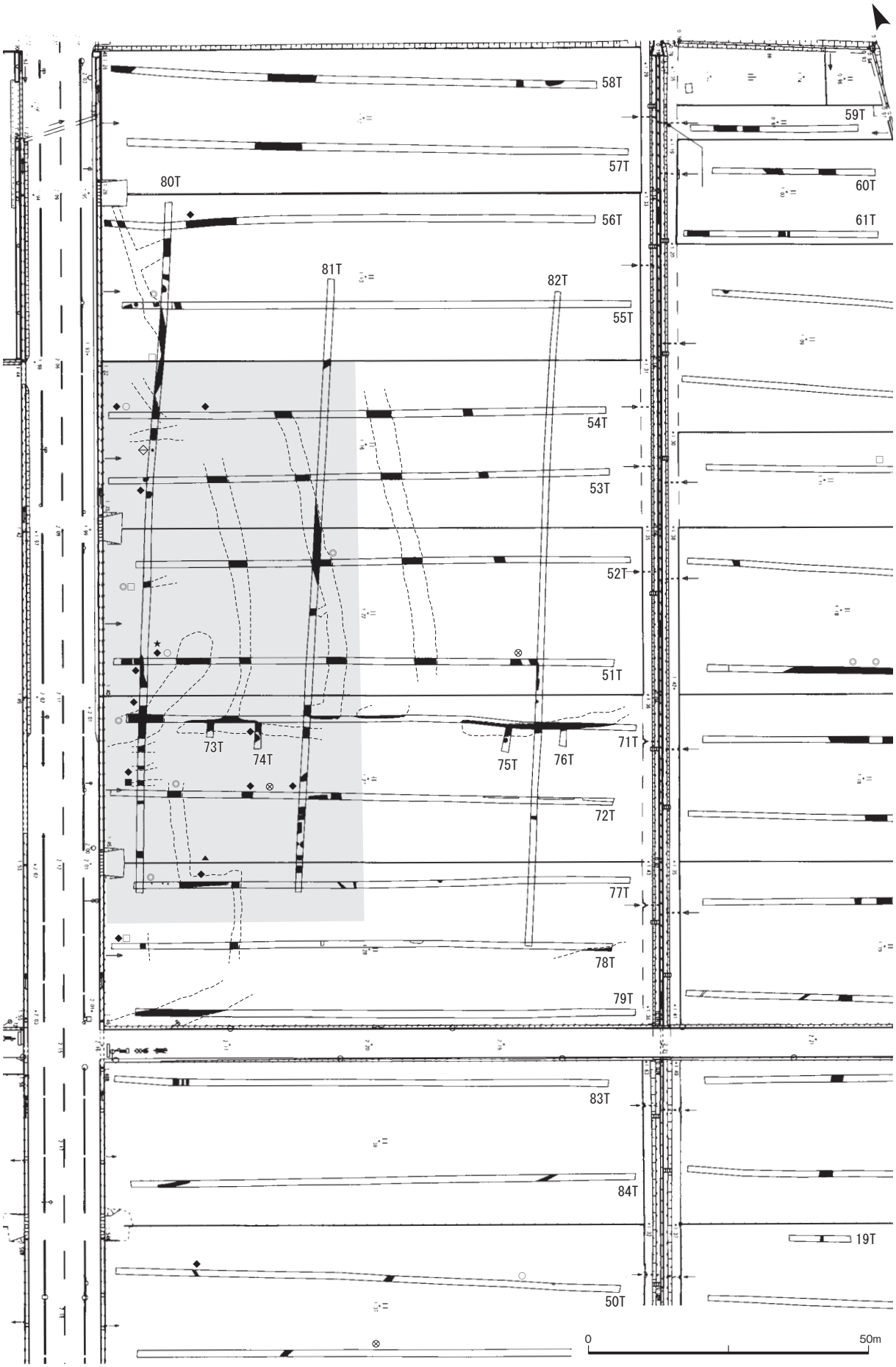
田中　明　2020年『射水市内遺跡発掘調査報告12－平成30年度射水市内遺跡発掘調査－』　射水市教育委員会

田中　明　2021年『射水市内遺跡発掘調査報告13－令和元年度射水市内遺跡発掘調査－』　射水市教育委員会

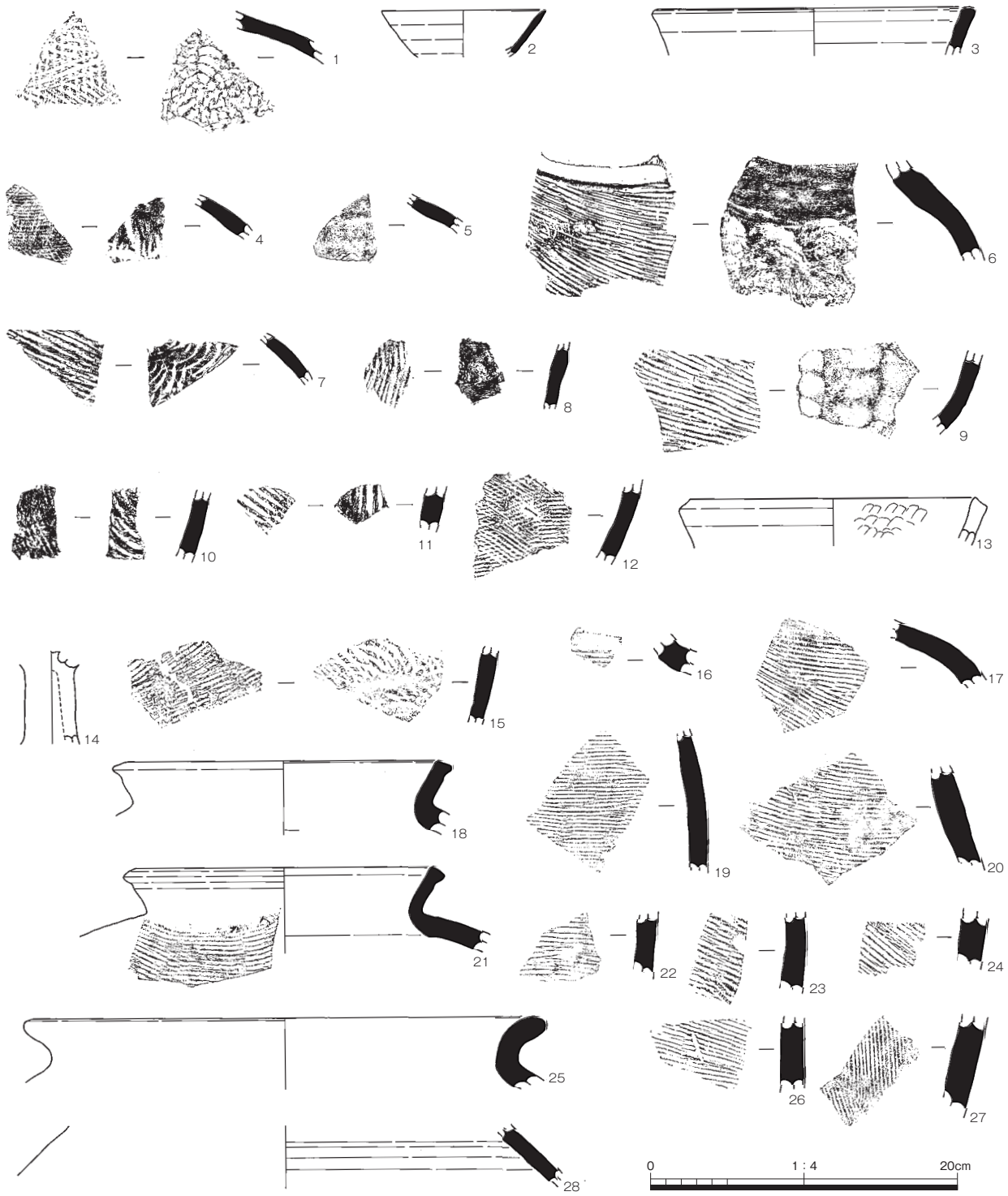
原田義範　1995年『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧　1994年度』　小杉町教育委員会



第５図　沖塚原東Ｂ遺跡試掘調査トレンチ・検出遺構図（１）

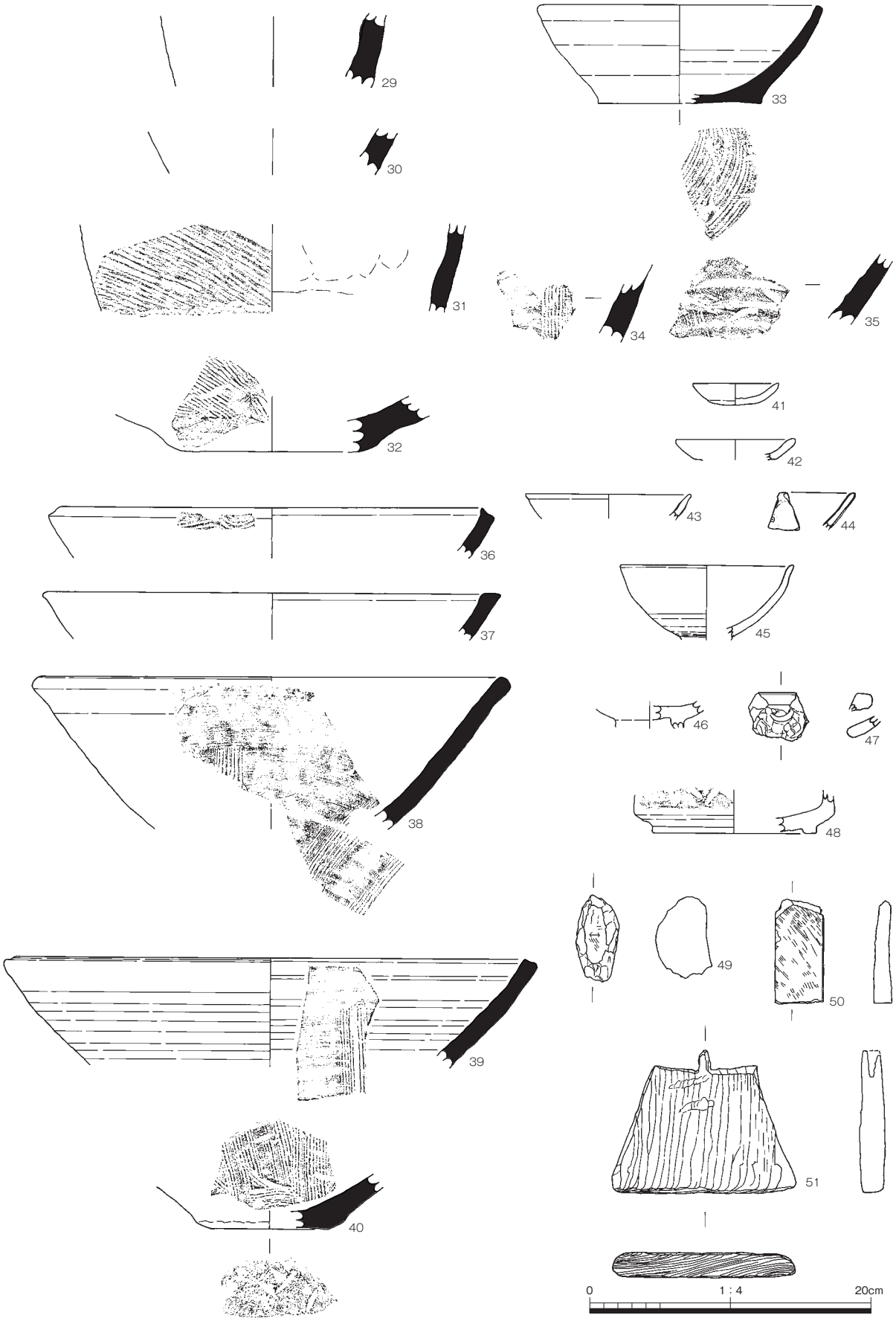


第６図　沖塚原東Ｂ遺跡試掘調査トレンチ・検出遺構図（２）（1/1,000）　　令和3年記録保存区域



第７図　遺物実測図(1/4)

加茂社遺跡（1）　戸破神川遺跡（2～13）　沖塚原東B遺跡（14～28）



第８図　遺物実測図(1/4)

沖塚原東B遺跡（29~51）

No.	延長	検出遺構	出土遺物
1	62.1	不明溝1	近現代陶磁器
2	54.9	不明溝1	
3	53.1	不明溝1	弥生土器
4	50.8	不明溝1	
5	42.0	不明溝1	近世磁器
6	37.9	不明溝3	
7	17.2	不明溝1	
8	21.4		
9	114.5	不明溝1	
10	110.7	不明溝2	
11	109.3	不明溝2、攪乱溝1	弥生土器
12	100.7	不明溝2	
13	102.2	不明溝2	
14	95.3		
15	89.2		
16	87.5	不明溝1	
17	79.6	不明溝1	
18	73.6	不明溝1	
19	11.0	不明溝1	
20	87.2		弥生土器
21	91.5		
22	83.4		
23	88.0		
24	92.2		
25	90.8		
26	94.8	地形落ち込み1	近世陶器
27	80.9	不明溝1、不明土坑1	
28	85.5		
29	87.6		
30	88.7		
31	85.4	不明溝1	
32	86.7	不明溝4	古代須恵器(甕)
33	88.3	不明溝3	
34	85.7	不明溝3	近現代陶磁器
35	87.9	不明溝2	
36	81.9	不明溝3	
37	86.9	不明溝1、地形落ち込み1	中世珠洲(すり鉢)
38	83.9	不明溝1	
39	85.8	不明溝2	
40	88.4	不明溝2	
41	88.8	不明溝1、不明土坑1	
42	88.4	不明溝3	
43	89.1	不明溝2	
44	87.8	不明溝5、不明土坑1(攪乱)	中世珠洲(甕・壺)、近世陶器、近世磁器
45	88.4	不明溝4	
46	82.9	不明溝3	

No.	延長	検出遺構	出土遺物
47	87.1	不明溝2	中世珠洲(壺)
48	89.8	不明溝2	砥石
49	88.7	不明溝1	近世磁器(染付碗)
50	90.2	中世溝1、不明溝1	弥生土器、中世珠洲(甕)
51	89.5	中世溝5、不明溝2、地形落ち込み1	弥生土器、中世珠洲(すり鉢)、砥石・近世陶器
52	88.6	中世溝3、不明溝1	近世磁器
53	89.7	中世溝3、中世土坑1、不明溝1	
54	89.0	中世溝4、不明溝1	弥生土器・中世珠洲(甕・すり鉢)
55	91.0	中世溝1、中世土坑3、地形落ち込み1	
56	87.6	中世溝2、地形落ち込み1	中世珠洲(壺)
57	89.6	地形落ち込み1	
58	86.9	河跡(旧神楽川?)、地形落ち込み1、不明溝1、不明土坑1	
59	29.9	地形落ち込み2、	
60	29.2	地形落ち込み2	
61	34.8	地形落ち込み1、不明溝2	
62	38.8	不明溝1、不明土坑1	
63	45.2	不明溝1	
64	47.3	不明溝3	中世土師器(皿)
65	53.3	不明溝2	
66	53.7	不明溝2	木製品(薄板材・角材)
67	61.4	不明溝1、攪乱溝1	
68	64.0	不明溝2	弥生土器
69	68.2	中世溝1、不明溝2、攪乱溝1	中世土師器(皿)・中世珠洲(甕)・木製品(薄板材)
70	70.5	不明溝3	
71	91.2	中世溝4、不明溝1	中世珠洲(壺・甕)、木製品(角材)
72	89.9	中世溝3、中世土坑1	中世珠洲(壺・すり鉢)、木製品(曲物)、近代磁器
73	2.6	中世溝1	
74	4.8	中世溝1、中世土坑1	
75	4.5	中世溝1、中世土坑1	
76	3.2		
77	88.9	中世溝4、不明溝1、不明土坑1 地形落ち込み1	古代須恵器、中世珠洲(甕)、木製品(角材)
78	89.5	中世溝2、不明溝1、不明土坑2	中世珠洲(壺)、中世土師器(皿)
79	89.5	不明溝1	
80	124.0	中世溝12、中世井戸1、中世土坑3 地形落ち込み1	古代須恵器、中世珠洲(甕)、中世土師器(皿)、木製品(下駄歯、板材)
81	110.1	中世溝10、中世土坑3	弥生土器、中世珠洲(壺・甕)、中世土師器(皿)
82	117.5	不明溝3、不明土坑1	
83	88.3	不明溝3	
84	90.2	不明溝2	

第2表　沖塚原東B遺跡試掘調査トレンチ一覧

図版	No.	出土地区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第7図	1	1T	須恵器	壺		(34.0)		加茂社遺跡	破片
	2	4T	須恵器	坏	10.6			戸破神川遺跡	口1/8
	3	3T	須恵器	壺	20.4			戸破神川遺跡	口1/8
	4	5T	須恵器	瓶(壺)				戸破神川遺跡	破片
	5	3T	須恵器	瓶類				戸破神川遺跡	破片
	6	2T	須恵器	甕				戸破神川遺跡	破片
	7	4T	須恵器	横瓶				戸破神川遺跡	破片
	8	4T	須恵器	瓶類				戸破神川遺跡	破片
	9	4T	珠洲	甕				戸破神川遺跡	破片
	10	5T	須恵器	甕				戸破神川遺跡	破片
	11	6T	須恵器	甕				戸破神川遺跡	破片
	12	5T	須恵器	甕				戸破神川遺跡	破片
	13	3T	瓦質土器	すり鉢	(18.6)			戸破神川遺跡	破片
	14	54T	弥生土器	高坏				沖塚原東B遺跡	脚部
	15	12T	須恵器	甕				沖塚原東B遺跡	破片
	16	78T	珠洲	壺(甕)				沖塚原東B遺跡	破片
	17	47T	珠洲	壺(甕)				沖塚原東B遺跡	破片
	18	71T	珠洲	壺	20.2			沖塚原東B遺跡	破片
	19	81T	珠洲	壺(甕)				沖塚原東B遺跡	破片
	20	81T	珠洲	壺(甕)				沖塚原東B遺跡	破片
	21	71T	珠洲	甕	19.3			沖塚原東B遺跡	破片
	22	77T	珠洲	壺(甕)				沖塚原東B遺跡	破片
	23	44T	珠洲	壺(甕)				沖塚原東B遺跡	破片
	24	80T	珠洲	壺(甕)				沖塚原東B遺跡	破片
	25	80T	珠洲	壺(甕)				沖塚原東B遺跡	破片
	26	72T	珠洲	壺(甕)				沖塚原東B遺跡	破片
	27	50T	珠洲	壺(甕)				沖塚原東B遺跡	破片
	28	77T	須恵器	甕				沖塚原東B遺跡	破片
第8図	29	80T	珠洲	壺(甕)				沖塚原東B遺跡	破片
	30	56T	珠洲	壺(甕)				沖塚原東B遺跡	破片
	31	54T	珠洲	壺(甕)				沖塚原東B遺跡	破片
	32	71T	珠洲	壺(甕)				沖塚原東B遺跡	破片
	33	74T	珠洲	鉢	19.2	6.9		沖塚原東B遺跡 〔珠洲I期〕	口1/8
	34	24T	珠洲	すり鉢				沖塚原東B遺跡 直線の卸目八条	破片
	35	37T	珠洲	すり鉢				沖塚原東B遺跡 直線の卸目八条	破片
	36	23T	珠洲	鉢	(30.0)			沖塚原東B遺跡	口1/16
	37	51T	珠洲	鉢	(31.8)			沖塚原東B遺跡	破片
	38	80T	珠洲	すり鉢	32.7			沖塚原東B遺跡 直線の卸目十条 〔珠洲III期〕	口1/8
	39	54T	珠洲	すり鉢	(36.3)			沖塚原東B遺跡 〔珠洲III期〕	破片
	40	72T	珠洲	すり鉢			(8.4)	沖塚原東B遺跡	破片
	41	64T	中世土師器	皿	6.0	1.55		沖塚原東B遺跡	口1/8
	42	81T	中世土師器	皿	8.4			沖塚原東B遺跡	口1/8
	43	22T	白磁	碗	(11.7)			沖塚原東B遺跡	破片
	44	80T	青磁	碗				沖塚原東B遺跡	破片
	45	51T	瀬戸美濃	天目茶碗	12.2			沖塚原東B遺跡	口1/8
	46	24T		碗				沖塚原東B遺跡	底1/4
	47	26T		急須				沖塚原東B遺跡	破片
	48	44T	越中瀬戸	碗			11.4	沖塚原東B遺跡	底1/4
	49	48T	中世石製品	砥石				沖塚原東B遺跡	破片
	50	51T	中世石製品	砥石				沖塚原東B遺跡	破片
	51	80T	中世木製品	下駄				沖塚原東B遺跡 差歯下駄の歯	破片

第3表　出土遺物観察表〔試掘調査〕

口：口縁部　底：底部

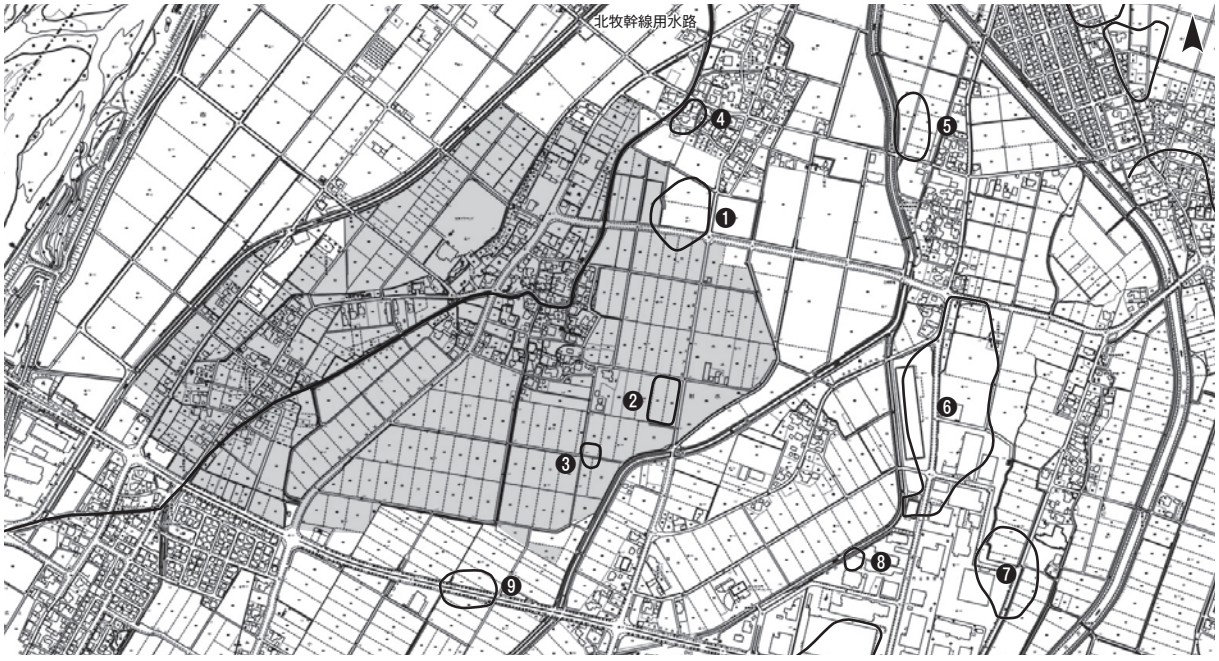
第３節　島・上条地区県営ほ場整備事業に伴う分布調査

１．調査に至る経緯と経過

令和元年10月、富山県高岡農林振興センターから、射水市島・上条地区における県営ほ場整備事業の実施に係る事前協議を受けた。事業は令和３年度から11年度までの９か年計画であり、内容は区画整理工、用排水路工、農道工、暗渠排水工を実施し、大区画ほ場へ再整備するものである。島地区東部では周知の埋蔵文化財包蔵地が把握されていたものの、地区の大部分においては発掘調査実績がなく、埋蔵文化財に関する情報が皆無であった。そのため、ほ場整備事業の基幹となる整備計画水田範囲を対象とした分布調査を実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地を含めた旧地形及び遺構面の遺存状況と、その包蔵地範囲を把握した上で、事業計画と埋蔵文化財保護との調整を図る必要があった。

島地区では、昭和44～47年に耕地整理による客土や切土・盛土等の地形改変が行われている。そのため、現地踏査による遺物の表面採集や現況地形の観察のみでは、旧地形の状況を確認することが困難であったことから、小規模なトレンチ掘削を併用し、表面採取による遺物の分布状況と、旧地形や土層堆積等の地形状況を併せて確認することで、必要な情報精度を確保することとした。上条地区では、昭和9年（1934）の庄川出水による削平が確認されている北牧幹線用水路より西側のほ場については概ね調査対象外とした。

分布調査は射水市教育委員会が主体となって、令和2年3月9～12日、10月12～14日（実働6日間）に実施した。



第９図　島・上条地区分布調査対象地及び周辺の遺跡（1/20,000）

❶島前田遺跡　❷島鉾田遺跡　❸島鉾田南遺跡　❹下条A遺跡　❺下条B遺跡　❻布目沢北遺跡　❼布目沢東遺跡　❽堀内遺跡　❾小泉遺跡

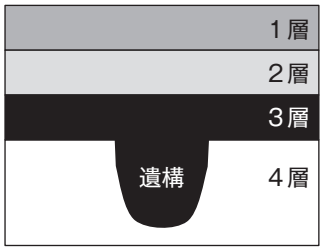
２．調査の方法

ほ場整備事業の面積は約54haであり、東部域には周知の埋蔵文化財包蔵地として島前田遺跡・島鉾田遺跡・島鉾田南遺跡があり、北側に下条Ａ遺跡、南側に小泉遺跡が隣接している。現地調査では、地表面踏査による遺物採取、並行して小規模なトレンチ掘削（坪掘り）を併用し、地下の旧地形の起伏をあわせて確認することで、総合的に遺跡範囲について検討を行うものである。トレンチ掘削は、小型バックホウを使用して幅約0.8m、長さ1.0～1.8mのトレンチを任意に設定し、遺構が存在すると考えられる層（地山・遺構想定面）まで掘り下げる。また、遺構・遺物の有無を確認するとともに、実測及び写真撮影を行い土層堆積の記録を作成した。トレンチは計140箇所で、総発掘面積は162.2㎡である。

3．調査の結果

（1）基本層序

調査対象地の現況は水田であり、標高は8.0～11.7mである。基本層序は、上から順に、1層：暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）粘質土【水田耕土】、2層：暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト【整地土】、3層：黒褐色シルト（2.5Y3/1）【自然堆積土】、4層：灰オリーブ色（5Y6/2）又はにぶい黄色（2.5Y6/3）シルト【地山】となる。3層や遺構からは弥生土器が出土、4層は遺構検出面となる。



基本層序模式図

（2）遺構及び遺物（第10・11図、図版16・17）

【島鉾田南遺跡】　全体的に地山（4層）は浅い場所に位置し、耕地整理等によって地山上面まで削平が及んでいる場所が多い。島鉾田南遺跡西側12T、東側17Tでは溝を確認した。17Tでは遺構内から弥生土器が出土している。18Tでは耕土（1層）より弥生土器が出土。表面踏査では、北側・南西側において弥生土器を６箇所（表面採取1～3・7～9）で採取した。

【島鉾田遺跡】　島鉾田遺跡西側30T、南側37Tでは溝を確認した。遺跡包蔵地内35T、その南側36Tでともに自然堆積土（３層）より弥生土器が出土。このことから、遺跡包蔵地範囲が西側・南側に拡大し、南西部に位置する島鉾田南遺跡と繋がる埋蔵文化財の広がりが想定できる。遺跡包蔵地から少し離れた調査対象地東端部の41T・48Tでは弥生土器を包含する溝を確認した。表面踏査でも周辺から中世の青磁・珠洲焼（表面採取4・5）が採取できるため、新たな埋蔵文化財の広がり【A】が想定できる。

【島前田遺跡】　島前田遺跡西側69Tでは弥生土器が出土、遺跡包蔵地内70Tでは溝を確認した。表面踏査では、遺跡包蔵地内において弥生土器を1か所（表面採取6）で採取した。このことから、遺跡包蔵地範囲が若干拡大する想定ができる。遺跡包蔵地より南西側61Tでは、耕土（1層）下層に礫層（旧河川）の堆積を確認した。また、58T－68Tを結ぶ南北ラインより西側のほ場は、北牧幹線用水路に向けて段々と低くなり、高低差は1m以上を測る。

【県道新湊庄川線西側】　南西部の91T・92Tでは腐植物を含むしまりのない覆土の溝を確認した。２か所の溝は繋がる旧用水路跡と考えられるが、出土遺物がなく時期不明。78T・94Tでは弥生土器と近世陶器が出土、ともに耕土（1層）から出土のため流れ込みと考えられる。表面踏査での採取遺物はない。

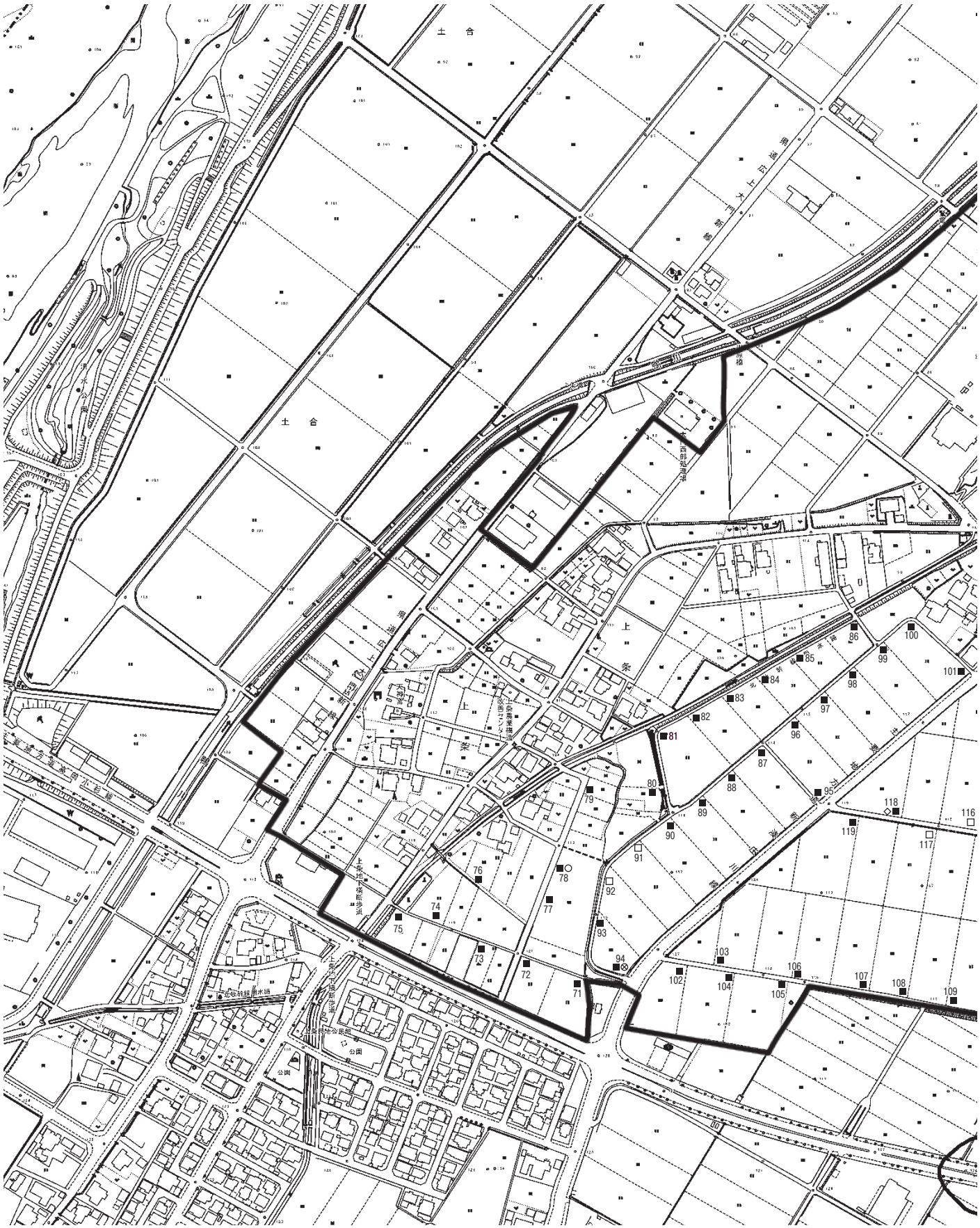
【県道新湊庄川線東側】　南端部の110T、中央部の116T・117Tでは腐植物を含むしまりのない覆土の溝を確認した。出土遺物がなく時期不明であるが、堆積状況から近現代の旧用水路跡と考えられる。111T・118Tでは近世伊万里と土師器（時期不明）が出土したが、ともに耕土（１層）から出土のため流れ込みと考えられる。表面踏査では、113Tほ場より近現代磁器（２点）を採取した。

【県道新湊庄川線東側ー島集落北部】　北部の131T・132Tでは円礫を含む覆土の溝を確認した。2か所の溝は繋がる旧用水路跡と考えられ、出土遺物から時期は近現代と考えられる。表面採取遺物はない。

（3）調査のまとめ

調査の結果、周知の埋蔵文化財包蔵地である島前田遺跡・島鉾田遺跡・島鉾田南遺跡に加え、新たに1か所【A】の範囲において遺構・遺物のまとまりを確認した。また、島鉾田遺跡と島鉾田南遺跡間の空白地においては、弥生時代の遺跡の広がりが想定できる。

以上の結果から、島地区東部域を中心とした周知の埋蔵文化財包蔵地を含む112,040㎡の範囲で、埋蔵文化財の詳細な範囲及び遺存状況等の確認のため、令和3年度の試掘調査が必要となる。



第10図　島・上条地区分布調査平面図（トレンチ及び遺物採取箇所）

下条Ａ遺跡

島前田遺跡

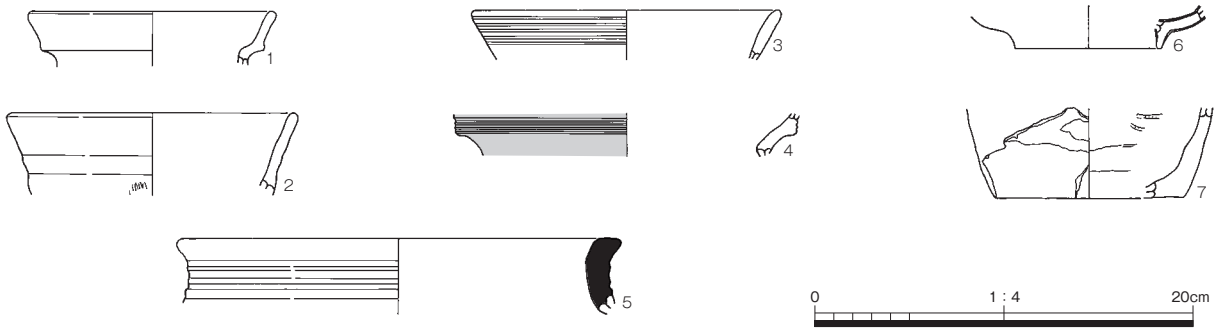
島鉾田遺跡

島鉾田南遺跡

小泉遺跡

堀内遺跡

凡例					
⬭	埋蔵文化財包蔵地	■	掘削トレンチ箇所（1～140）		
▭	ほ場整備事業計画地	□	遺構を確認したトレンチ		
▒	試掘調査対象範囲				
○	弥生土器	▲	中世青磁	☒	近現代磁器
◆	中世珠洲	⊗	近世陶磁器	◇	不明土師器



第11図　遺物実測図［島・上条地区分布調査］(1/4)

図版	No.	出土地区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第11図	1	表採③	弥生土器	甕	12.3				口1/16
	2	41T	弥生土器	甕	14.7			遺構内(SD)	口1/8
	3	35T	弥生土器	甕	16.0			擬凹線文　3層	破片
	4	17T	弥生土器	甕	18.0			擬凹線文　外面煤付着	破片
	5	表採⑤	須恵器	甕	22.4				破片
	6	表採④	青磁	碗			7.7		底1/12
	7	94T	近世陶器	壷			9.8	外面錆釉付着　1層	底1/8

第４表　出土遺物観察表［島・上条地区分布調査］

口：口縁部　　底：底部

No.	遺跡名	所在地	種別	原因	調査期間	調査日数	対象面積(㎡)	確認面積(㎡)	検出遺構	出土遺物	開発への対応
①	青井谷 干田Ⅵ 211283	入会地字行福 41-1 外4筆	祭祀	森林作業道 開設工事	R2.4.16	1	1,443.0	1443.00	不明土坑	なし	工事実施
②	青井谷 干田Ⅳ 211284	入会地字 行福38	散布地	森林作業道 開設工事	R2.4.16	1	39.0	39.00	なし	なし	工事実施
③	背戸狭間 211015	善光寺 16番15	散布地	個人専用 住宅建築	R2.4.24	1	212.5	212.49	なし	なし	工事実施
④	赤田I 211361	赤田第2土地区画 整理事業保留地 11街区13号	散布地 集落	個人専用 住宅建築	R2.4.30	1	237.7	237.65	なし	なし	工事実施
⑤	高木･荒畑 211029	鏡宮446-3 外1筆	集落	個人専用 住宅建築	R2.6.9	1	489.4	489.37	なし	なし	工事実施
⑥	中山南 211096	太閤山1丁目 18外	集落 製鉄	木柱電灯 更新工事	R2.6.22	1	0.4	0.40	なし	なし	工事実施
⑦	本江東 211050	かもめ台37	散布地 集落	個人専用 住宅建築	R2.10.29	1	283.3	283.25	なし	なし	工事実施
⑧	立神A 211349	入会地字 立神46	製鉄	森林作業道 開設工事	R2.10.30	1	308.0	308.00	なし	なし	工事実施
⑨	西谷No.2 211339	入会地字東笹 鎌野20−2	製鉄	森林作業道 開設工事	R2.11.27 12.10	2	192.0	192.00	不明土坑 (遺跡包蔵地外)	なし	工事実施
⑩	西谷A窯跡 211338	入会地字 立神41−1	窯	森林作業道 開設工事	R3.3.9	1	101.0	101.00	なし	なし	工事実施
⑪	荒町遺跡 211418	荒町字越田 343番1	散布地	個人専用 住宅建築	R2.12.11･25 R3.2.26	3	221.2	221.20	なし	なし	工事実施
⑫	中山中遺跡 221095	太閤山1丁目 43番1	散布地 集落 古墳	携帯電話 基地局建設	R3.2.17	1	4.0	0.99	なし	なし	工事実施
計	12遺跡12件					15	3,531.4	3,528.4			

第５表　令和２年度埋蔵文化財工事立会調査一覧

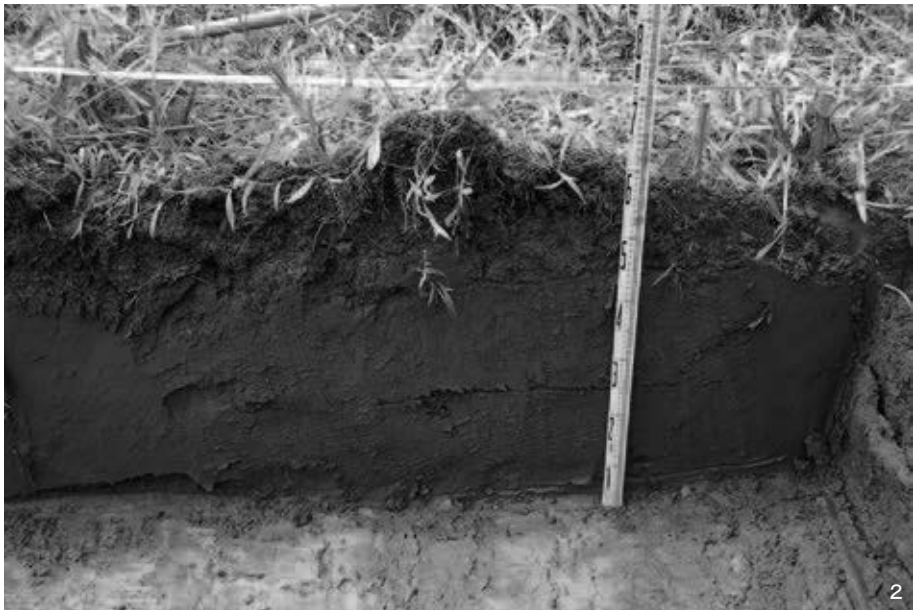
１．１Ｔ遺構検出
（南から）

２．１Ｔ土層断面
（西から）

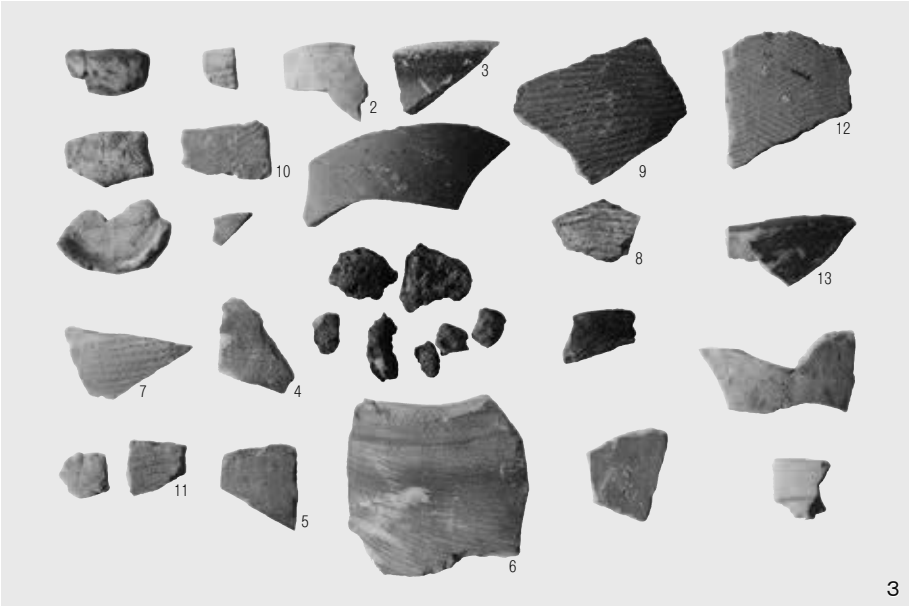
３．出土遺物
椀型木製品

図版２　戸破神川遺跡　試掘調査

１．３Ｔ全景
（西から）



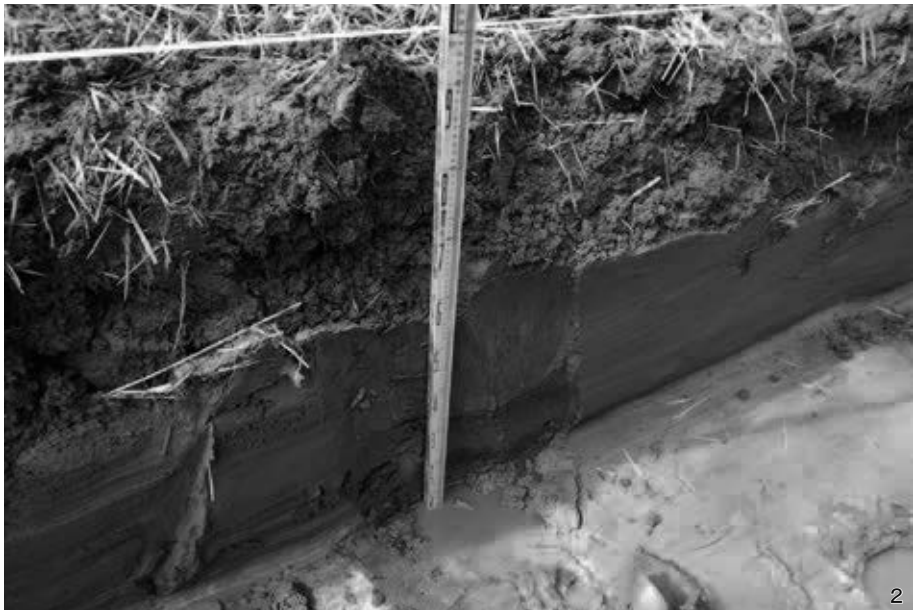
２．１Ｔ土層断面
（北から）



３．出土遺物
弥生土器
古代須恵器
中世珠洲
中世土師器
近世陶磁器
古代鉄滓

１．１Ｔ全景
（西から）

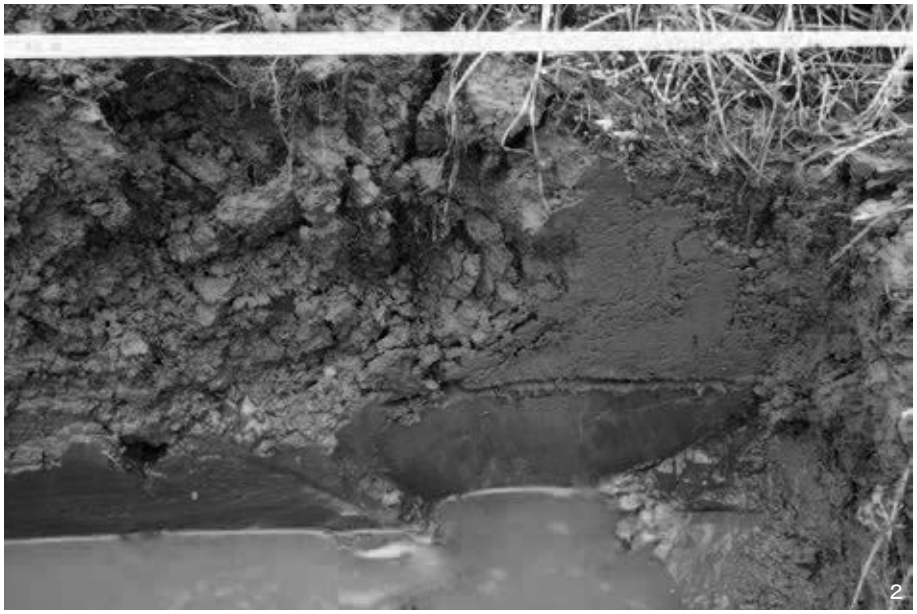
２．１Ｔ土層断面
（北から）



３．出土遺物
近世陶磁器

図版４　八塚Ａ遺跡（4）　試掘調査

１．２Ｔ掘削状況
（北東から）



２．２Ｔ土層断面
（南から）

３．２Ｔ遺構検出
（東から）

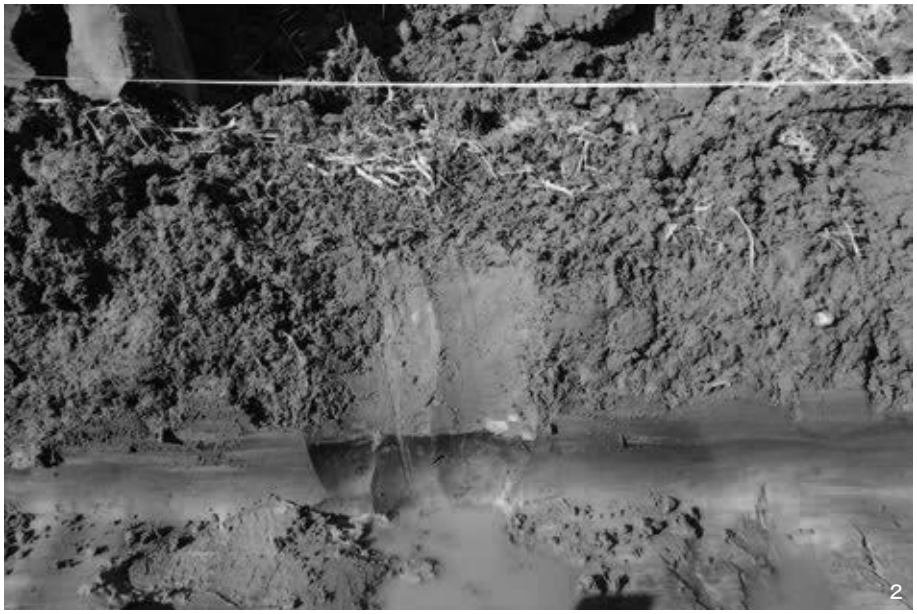
１．調査対象地全景
（南東から）

２．１Ｔ全景
（北東から）

３．１Ｔ土層断面
（南東から）

図版６　八塚Ａ遺跡（8）　試掘調査

１．２Ｔ全景
（北から）



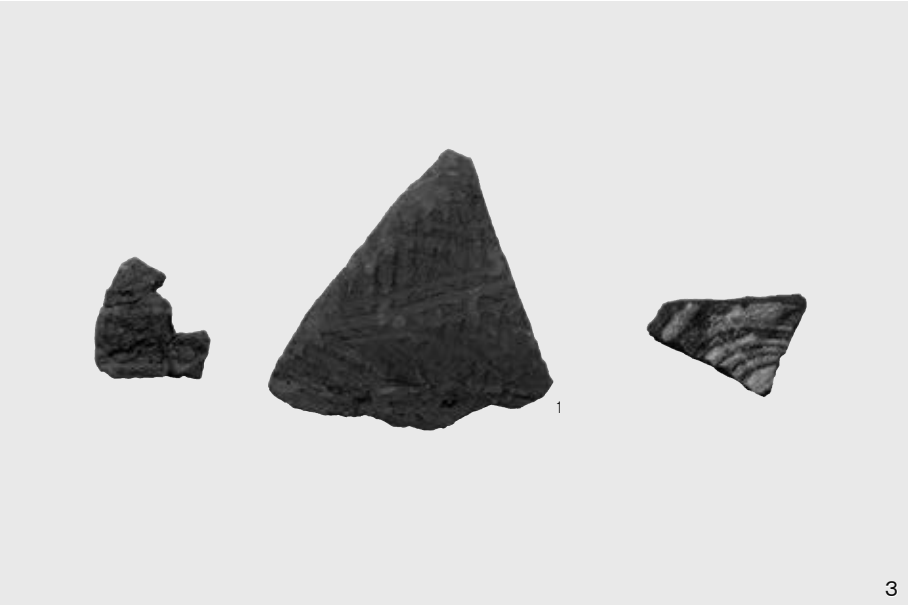
２．１Ｔ土層断面
（西から）

３．２Ｔ遺構検出
（南から）

１．３Ｔ全景
（南から）

２．３Ｔ遺構検出
（西から）

３．出土遺物
弥生土器
古代須恵器
近世磁器



図版８　沖塚原東Ｂ遺跡（10）　試掘調査

１．調査対象地近景
（西から）

２．７Ｔ遺構検出
（北から）

３．出土遺物
中世土師器

１．調査対象地近景
（西から）

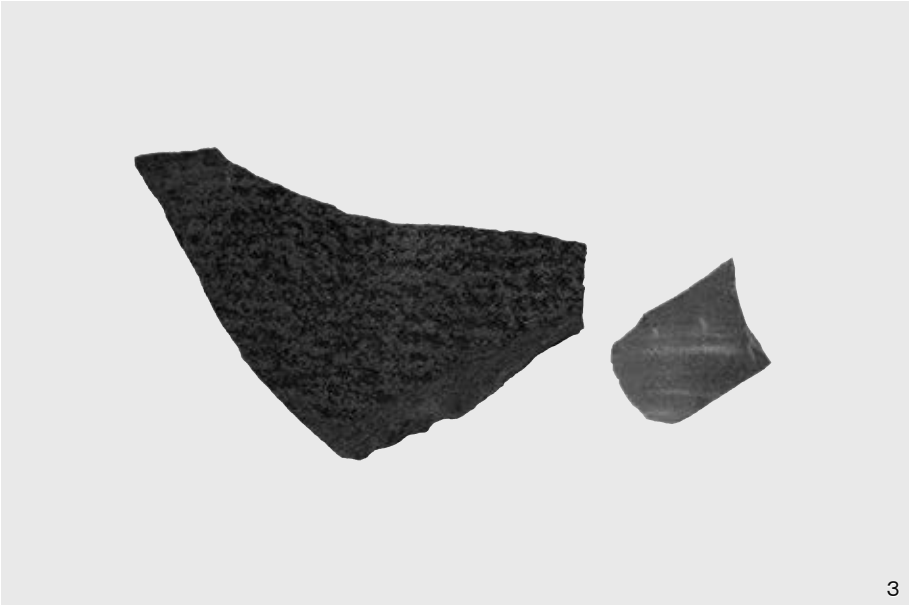
２．28Ｔ土層断面
（北から）

３．出土遺物
中世土師器
近世磁器

図版10　八塚Ａ遺跡（12）　試掘調査

１．８Ｔ全景
（南から）

２．８Ｔ遺構検出
（南から）

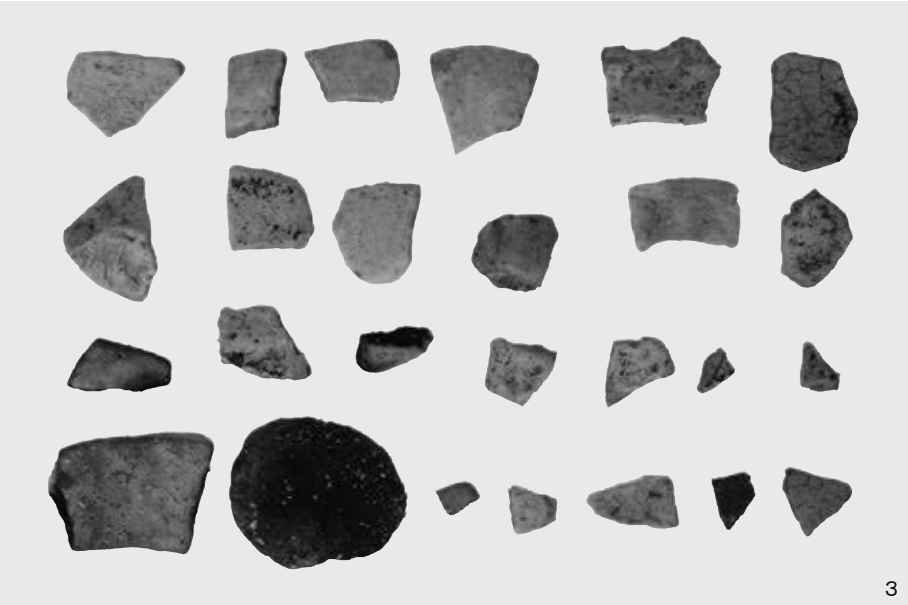


３．出土遺物
古代須恵器
近世陶器

1．４Ｔ全景
（北から）

2．４Ｔ遺構検出
（西から）

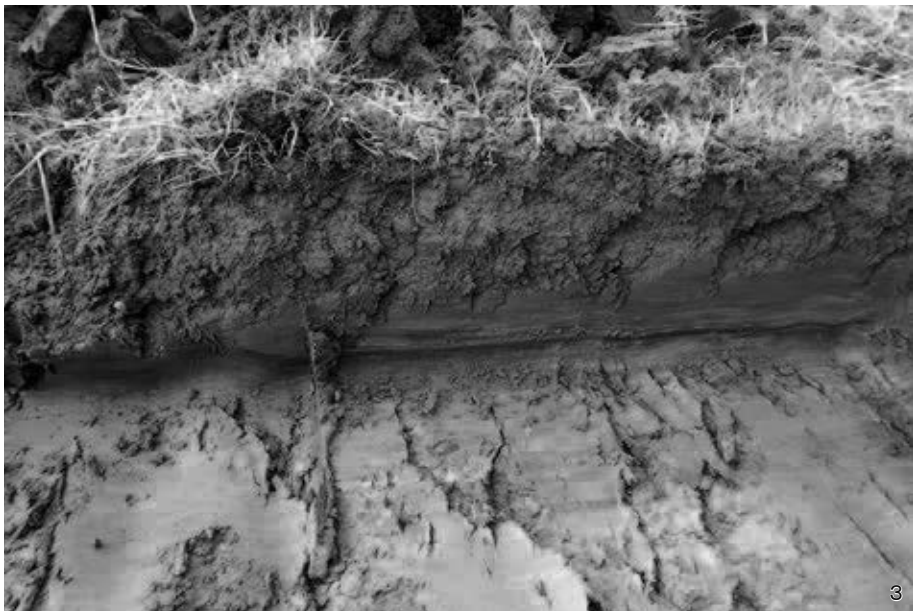
3．出土遺物
弥生土器



図版12　八塚Ａ遺跡（14）　試掘調査

1．調査対象地全景
（東から）

2．１Ｔ全景
（東から）



3．１Ｔ土層断面
（北から）

１．55Ｔ遺構検出況
（南から）

２．71Ｔ遺構検出
（南東から）

３．71Ｔ遺構検出
（南東から）

図版14　沖塚原東Ｂ遺跡（7）　試掘調査

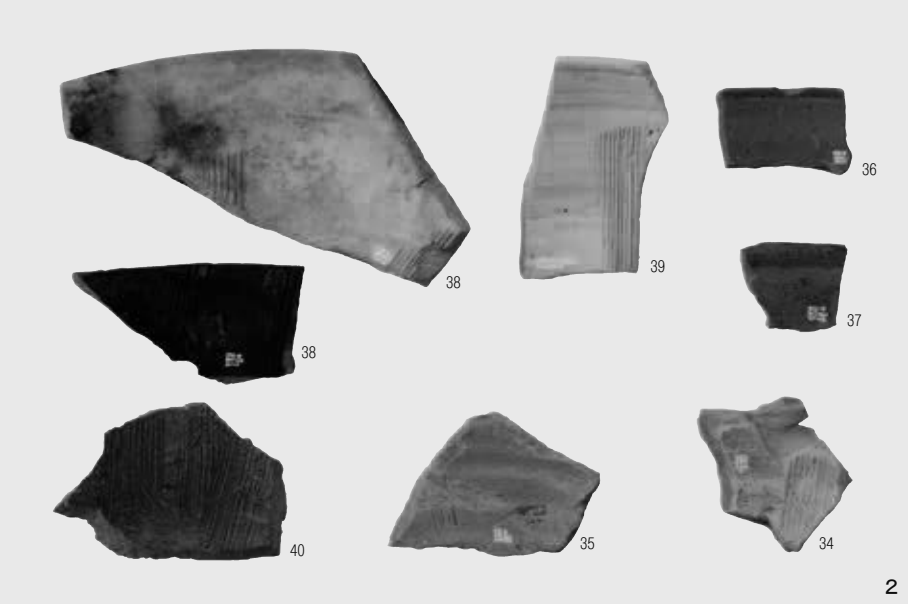
1．71Ｔ土層断面
（東から）

2．80Ｔ中世珠洲出土
（東から）

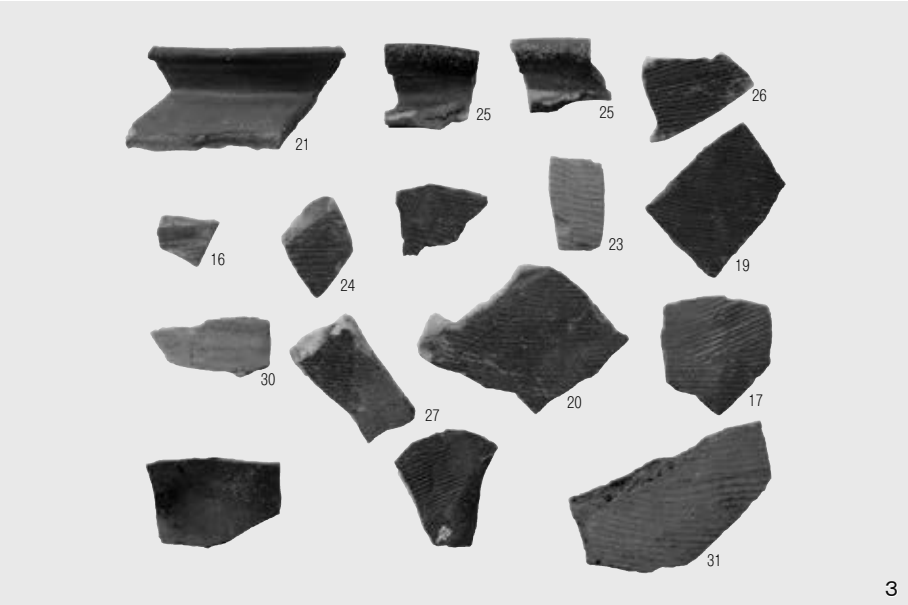
3．81Ｔ遺構検出
（南から）

1．出土遺物
　　中世土師器

2．出土遺物
　　中世珠洲



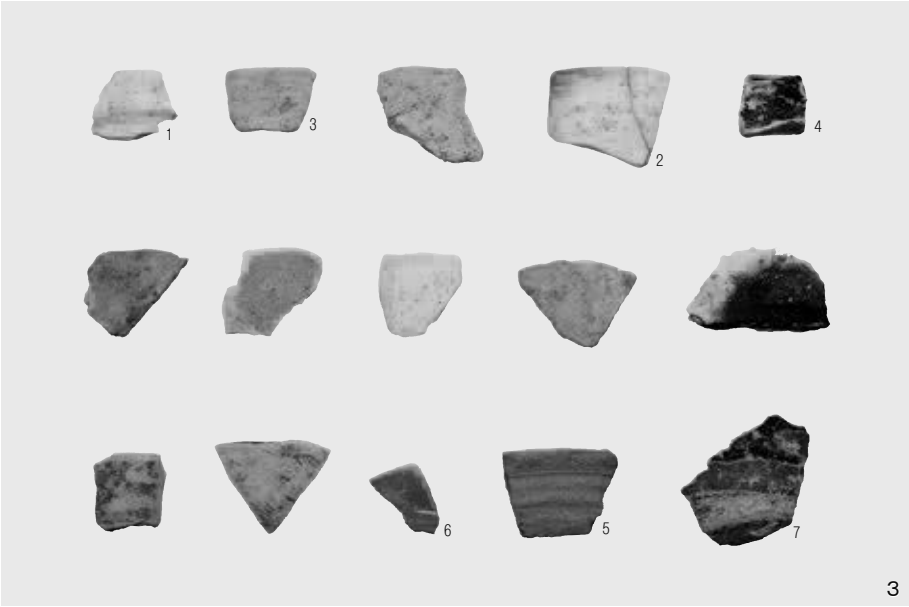
3．出土遺物
　　中世珠洲



図版16　島・上条地区　分布調査

1．島鉾田南遺跡近景
（西から）

2．17Ｔ遺構検出
（西から）

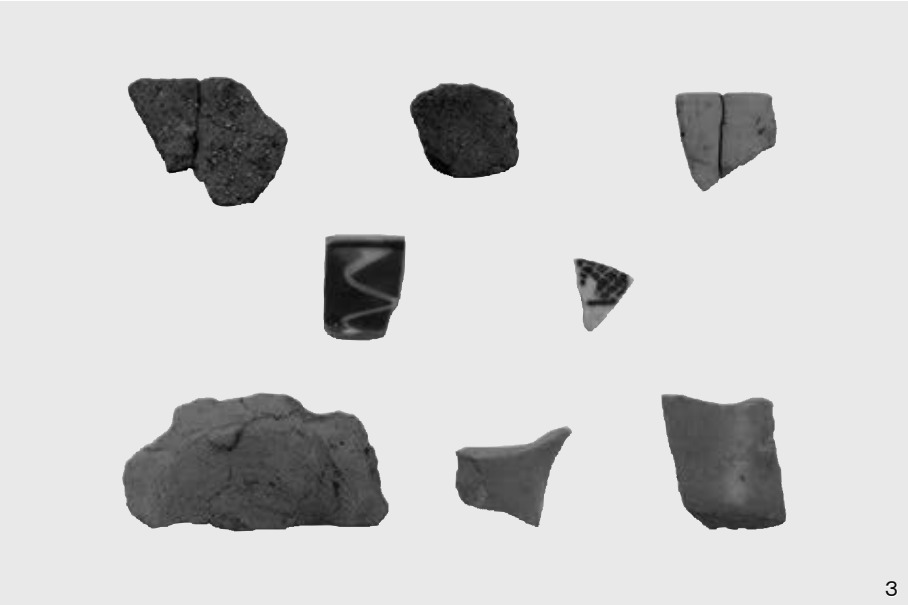


3．出土遺物
弥生土器
古代須恵器
中世青磁
近世陶器

1．92Ｔ遺構検出
（南から）

2．116Ｔ遺構検出
（南から）

3．出土遺物
弥生土器
不明土師器
近世陶磁器
近現代磁器



報 告 書 抄 録

ふ り が な	いみずしないいせきはっくつちょうさほうこくじゅうよん
書 名	射水市内遺跡発掘調査報告 14
副 書 名	令和２年度射水市内遺跡発掘調査
編 著 者 名	田中　明・原田義範
編 集 機 関	射水市教育委員会
所 在 地	〒 939 － 0294　富山県射水市新開発 410 番地 1　TEL 0766 － 51 － 6637
発 行 年 月 日	西暦 2022 年 3 月 11 日

ふりがな 主な所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
八塚Ａ遺跡（やつづかえいいせき）	射水市八塚（いみずしやつづか）	211	447	36° 43′ 38″	137° 03′ 44″	令和２年度 20200522	35.2	宅地造成
戸破神川遺跡（ひばりかみかわいせき）	射水市戸破（いみずしひばり）	211	354	36° 43′ 01″	137° 06′ 40″	令和２年度 20200720 20200721	196.3	宅地造成
島鉾田 南 遺跡（しまほこたみなみいせき）	射水市島（いみずししま）	211	374	36° 42′ 23″	137° 02′ 38″	令和２年度 20201012～ 20201014	72.0	県営ほ場整備
沖塚原 東 Ｂ遺跡（おきつかはらひがしびいいせき）	射水市沖塚原（いみずしおきつかはら）	211	034	36° 44′ 51″	137° 04′ 48″	令和２年度 20201019～ 20201116	7,369.0	企業団地造成
加茂社遺跡（かもしゃいせき）	射水市三ヶ（いみずしさんが）	211	088	36° 42′ 53″	137° 05′ 40″	令和２年度 20201120	102.5	集合住宅建築
沖塚原 東 Ｂ遺跡（おきつかはらひがしびいいせき）	射水市沖塚原（いみずしおきつかはら）	211	034	36° 44′ 52″	137° 04′ 39″	令和２年度 20201125	47.5	市道改良
沖塚原遺跡（おきつかはらいせき）	射水市沖塚原（いみずしおきつかはら）	211	024	36° 44′ 55″	137° 04′ 32″	令和２年度 20201125 20201126	96.9	市道改良
八塚Ａ遺跡（やつづかえいいせき）	射水市八塚（いみずしやつづか）	211	447	36° 43′ 34″	137° 03′ 41″	令和２年度 20210301	130.1	宅地造成
加茂社遺跡（かもしゃいせき）	射水市三ヶ（いみずしさんが）	211	088	36° 42′ 53″	137° 05′ 41″	令和２年度 20210303	84.6	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八塚Ａ遺跡（やつづかえいいせき）	散布地・集落	中世・近世	不明溝	椀型木製品	
戸破神川遺跡（ひばりかみかわいせき）	散布地	古代～近世	不明溝	弥生土器・古代須恵器 中世珠洲・中世土師器 近世陶磁器・古代鉄滓	
島鉾田 南 遺跡（しまほこたみなみいせき）	散布地	不明	なし	弥生土器・近世陶磁器 不明土師器・近現代磁器	
沖塚原 東 Ｂ遺跡（おきつかはらひがしびいいせき）	散布地	中世	中世溝・中世土坑 中世井戸 不明溝・不明土坑	弥生土器・古代須恵器 中世珠洲・中世土師器 近世陶磁器・不明石製品 不明木製品	
加茂社遺跡（かもしゃいせき）	散布地・集落	縄文～近世	弥生溝・弥生土坑	弥生土器・古代須恵器 近世磁器	
沖塚原 東 Ｂ遺跡（おきつかはらひがしびいいせき）	散布地	中世	不明溝・不明土坑	中世土師器	
沖塚原遺跡（おきつかはらいせき）	散布地	中世	なし	中世土師器・近世陶磁器	
八塚Ａ遺跡（やつづかえいいせき）	散布地・集落	中世・近世	不明土坑	古代須恵器・近世陶器	
加茂社遺跡（かもしゃいせき）	散布地・集落	縄文～近世	不明溝	弥生土器・木製品	

要 約	企業団地造成に伴う沖塚原東Ｂ遺跡試掘調査では、13 世紀代の遺構・遺物の広がりを確認した。

＊その他の試掘調査の抄録は第１表を参照下さい。

射水市内遺跡発掘調査報告14

－令和２年度射水市内遺跡発掘調査－

2022（令和4）年3月11日発行

編集・発行　射水市教育委員会

〒939－0294

富山県射水市新開発410番地1

TEL0766－51－6637

印　　刷　株式会社タニグチ印刷